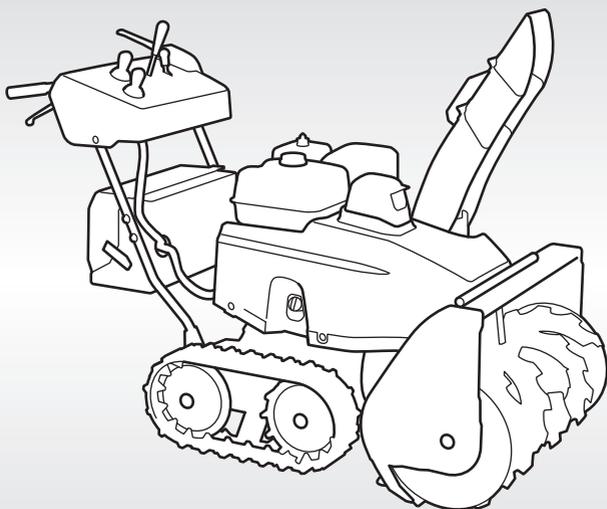


HONDA

除雪機

HSS960i・HSS1370i

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

Honda 除雪機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店またはサービス指定店にお気軽にお申しつけください。

- ・本機は除雪以外の目的で使用しないでください。
思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
故障の原因となるばかりでなく、製品保証の対象外となる場合があります。

取扱説明書について

この取扱説明書は

- －除雪作業をするときは、必ず携帯してください。
- －除雪機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡してください。
- －紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはサービス指定店にご注文ください。

Honda 除雪機は、除雪機安全協議会の自主規格「歩行型ロータリ除雪機の安全規格」に適合しています。

この取扱説明書は、お買いあげいただいた除雪機で安全かつ能率的な除雪作業をする手助けとして編集されたものです。

取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠ 危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠ 警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠ 注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

本書はHSS1370iを中心に編集しています。

目次

安全にお使いいただくために	4
安全ラベル	11
各部の名称と取扱いをおぼえましょう	13
各部の名称	13
各部の取扱い	17
エンジンスイッチ	17
制御警告灯（赤）	17
制御表示灯（橙）	18
燃料コックレバー	19
マニュアルスタートレバー（HSS1370i）	19
チョークノブ（HSS960i）	20
エンジン回転調節レバー	21
前後進速度調節レバー	23
iコントロール（自動負荷制御）ボタン	24
走行クラッチレバー（デッドマンクラッチ機構）	26
除雪クラッチボタン	27
旋回レバー	28
投雪方向調節スイッチ	29
オーガハウジング調節スイッチ（JXタイプ）	30
オーガハウジング調節レバー（Jタイプ）	30
ホイールピン	31
ソリ、スクレーパー	31
ハンドル高さ調節ボルト	32
雪かき棒	32
作業灯	33
燃料計	33
作業前に点検しましょう	34
燃料の点検	34
エンジンオイルの点検・補給	36
バッテリーの点検	37
オーガ／ブロワロックボルトの点検	41
ソリ、スクレーパーの調節	42
走行クラッチレバー・除雪クラッチボタンの点検	45
その他の点検	46
エンジンのかけかた	47
運転操作のしかた	50
1. オーガハウジング高さの調節	51
2. 始動	53
3. 運転操作	53

3a. iコントロール「入」での除雪作業	54
3b. iコントロール「切」での除雪作業	59
4. 旋回のしかた	63
5. 走行モーターの保護機能について	65
6. バッテリー走行モード	66
7. シャーボルトガード(Jタイプ)	68
8. 除雪のしかた	69
除雪機のとめかた	72
定期点検を行いましょう	76
定期点検整備項目	76
点検・整備のしかた	77
同梱工具と同梱部品	77
エンジンオイルの交換	78
点火プラグの点検、調整、交換	80
クローラーの張り点検、調整	82
除雪部の点検	83
オーガ、ブロワの交換	84
ヒューズについて	85
各部が作動しないときは	86
各部の作動点検	86
運搬するときは	87
長期間使用しないときの手入れ	90
故障のときは	97
主要諸元	109
配線図	111

安全にお使いいただくために

⚠ 警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

作業を始める前に

- 本機は除雪以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 過労や飲酒、薬物を服用して除雪機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- この取扱説明書および除雪機に貼り付けられているラベルを事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上自分で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- エンジンを始動する前に必ず「作業前の点検」（34～46頁）を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。
- 悪天候などで視界の悪いときは作業をしないでください。事故の危険性が高くなります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも除雪機の運転操作をさせないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。



⚠ 警告

作業を始める前に

- カバーやラベル類、その他の部品を外して除雪機を操作しないでください。また誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 本機を運搬するときや保管するときは、除雪クラッチを「切」にし、オーガハウジングを接地させてください。
- 除雪作業を行う前に除雪しようとする場所を点検してください。ケガや除雪機の故障の原因となることがあるので木片、缶、ホース、線材、ナワなどの異物を取除いてください。また降雪した後で障害物が見えなくなる場合があるのでシーズン前にあらかじめ除雪する場所の障害物を取除くようにしてください。



- 除雪場所に除雪機を操作する人以外の人や動物がいないことを確認してください。

⚠ 警告

作業を始める前に

- 作業をするときは、防寒手袋、帽子、防寒服、滑りにくい防寒靴など防寒用の身支度をしてください。
- 砂利道などの除雪は、石の飛び出しなど非常に危険を伴いますので注意してください。
- 投雪場所は石が飛び出しても支障がない所を選んでください。
- ソリ、スクレーパーを適切に調節し、オーガが石を巻き込まないようにして作業してください。石を巻き込むと、除雪機の故障の原因となるとともに思わぬ事故の原因にもなります。
- オーガやブロワなどの回転部および投雪口を確認し、異物がある場合は備え付けの雪かき棒で取除いてください。やむをえず手を使って回転部を確認するときは、保護手袋を着用してください。ケガをするおそれがあります。
- 定められた点検を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理をしておき、不備な状態での使用は絶対に行わないでください。
- 走行クラッチレバーを絶対に固定しないでください。安全機構（デッドマンクラッチ機構）が働かず、重大な事故につながるおそれがあります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して屋外の換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。

⚠ 警告

作業を始める前に

- 燃料をこぼさないように注意し、給油限界位置を超えないように補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。



- 除雪機を移動させるとき以外は、屋内や換気の悪い場所で、エンジンを始動させないでください。移動する際に屋内でエンジンをかける場合は、扉を開け十分な換気を行ってください。排気ガスには有害な成分が含まれています。

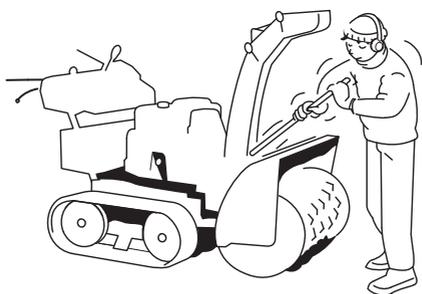


- 屋根に積った雪や急斜面での除雪は行わないでください。除雪機が転倒して作業員や近くにいる人にケガをさせることがあります。

⚠ 警告

作業中の注意

- オーガやブロワなどの回転部分や投雪口に顔や手足を近づけないでください。また、作業範囲に人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。
- 投雪方向を人や建物、自動車等に向けて使用しないでください。投雪方向の調節は状況に応じて適切に行ってください。
- 雪の中に氷や石が混入している場合にはそれらが雪よりも遠くまで飛ぶことがあるので、余裕をもって調節してください。
- 万一、雪の中に石などの異物が混じっている場合は、それらが投雪口からだけでなく、除雪部から前方に投げ出されることがあるので、前方にも常に注意してください。
- 除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜き、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。
エンジンが回っているときは絶対に手を入れしないでください。大ケガをするおそれがあります。



⚠ 警告

作業中の注意

- 急発進は、絶対に行わないでください。思わぬ事故の原因となることがあるので必ず前後進速度調節レバーを“N”（中立）の位置（23頁参照）にしてから走行クラッチレバーを握り、徐々に前後進速度調節レバーを操作してください。
- 雪の上での作業は滑りやすく、転倒するおそれがあります。
 - ・ 滑りやすい場所では、低速で運転してください。
 - ・ 除雪中は、足元に注意しハンドルをしっかり握ってください。
 - ・ 方向転換は、必ず本機を水平にし十分速度を落として行ってください。
 - ・ 後進時には、足元および後方の障害物に十分注意して、転倒したり障害物にはさまれないように運転してください。
- 共同作業は行わないでください。思わぬ事故を招くことがあります。
- 除雪部に障害物が当たったり、異物が巻き付いた場合は、すぐにエンジンを停止してください。誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜いてください。各回転部が完全に止まってから、注意して損傷を調べてください。手を使って回転部を確認するときは、保護手袋を着用してください。ケガをするおそれがあります。損傷がある場合は、完全に補修するまで再始動しないでください。事故の原因となるおそれがあります。
- 傾斜面は横切って除雪しないでください。
- 傾斜面で方向を変える場合には、本機の動きが平地と異なることがありますので十分注意してください。
- 異常な音・におい・振動などがある場合は、直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください。
- 除雪作業をしないで本機を移動させる場合は、除雪クラッチボタンを「切」にしてください。
- 除雪機から離れるときは、平坦な場所に駐車しエンジンを停止してください。除雪機が動きだし、ケガや事故の原因となるおそれがあります。

⚠ 警告

作業が終わったら

- 本機から離れるときには、オーガハウジングを路面に接地させ、必ずエンジンを止め、エンジンスイッチキーを抜いてください。いたずらなどで本機が動きだし、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 本機を屋内に格納するときやボディーカバーをかけるときは、火災の原因とならないように、エンジンが冷えてから行ってください。
- 長期保管時（30日以上使用しないとき）には、タンク内の燃料を抜きとり本機を火気のない所に保管してください。また抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発のおそれがありますので所定の燃料タンクなどに保管してください。
- 点検や清掃をするときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜いて行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラーなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。
- 枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車保管しないでください。排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。
- 植込みなどの近くに駐停車するときには、排気ガスが当たらないように、本機の向きを決めましょう。

安全ラベル

除雪機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。

本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失または汚れなどでラベルが読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。ラベルの貼り替えについては、お買いあげ販売店またはサービス指定店へお問い合わせください。

(バッテリー本体のラベル)

警告



■巻き込まれてケガをするおそれがあるので、エンジン回転中は、手や足を入れないこと。
■雪を取除くときは、必ずエンジンを停止してから、雪かき棒で行うこと。

警告

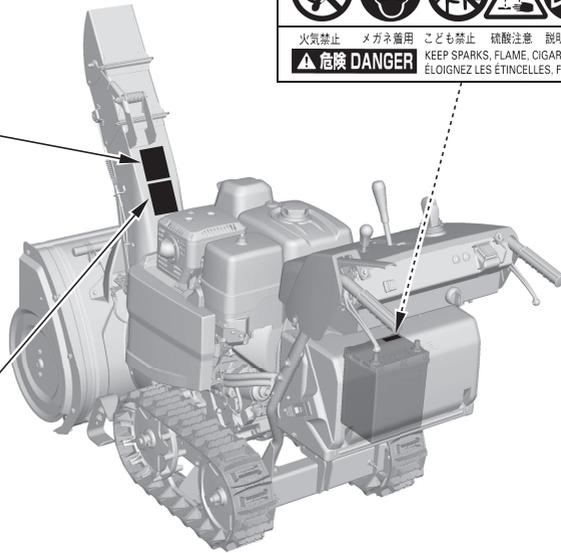


飛散物によりケガをするおそれがあるので、作業中は、投雪口を人や建物に向けないこと。



火気禁止 メガネ着用 こども禁止 硫酸注意 説明書熟読 爆発注意
KEEP SPARKS, FLAME, CIGARETTES AWAY.
ÉLOIGNEZ LES ÉTINCELLES, FLAMME, CIGARETTES.

危険 DANGER



安全にお使いいただくために

警告	
	排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。

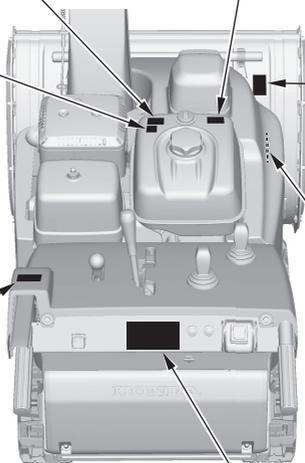
警告	
	火災や爆発により死傷するおそれがあるので、 ●給油時にはエンジンを停止すること。 ●給油口に火を近づけないこと。

注意	
	ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。

危険	
	■巻き込まれて死傷するおそれがあるので、エンジン回転中は、手や足を入れないこと。 ■雪を取除くときは、必ずエンジンを停止してから、雪かき棒で行うこと。

危険	
	クラッチレバーは絶対に固定しないこと。

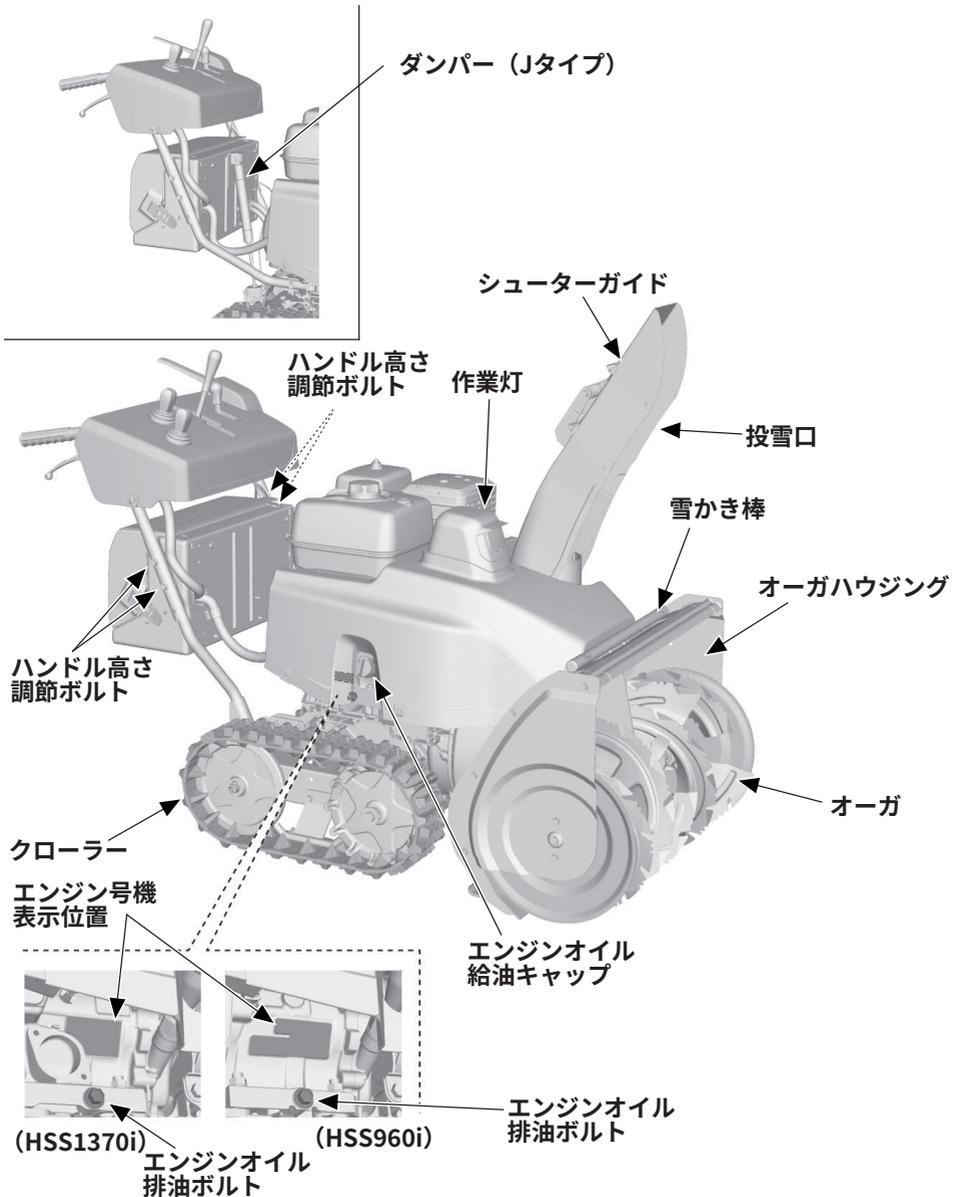
注意	
	手や衣服が巻き込まれるのでカバー類を外してエンジンを運転しないこと。



警告	
	死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。 ●急発進防止のためエンジンを始動するときは、全てのクラッチを切り、前後進速度調節レバーを中立にすること。 ●点検整備時はエンジンを停止すること。
	はさまれてケガをするおそれがあるので、後進するときは後方に障害物がないか確認すること。

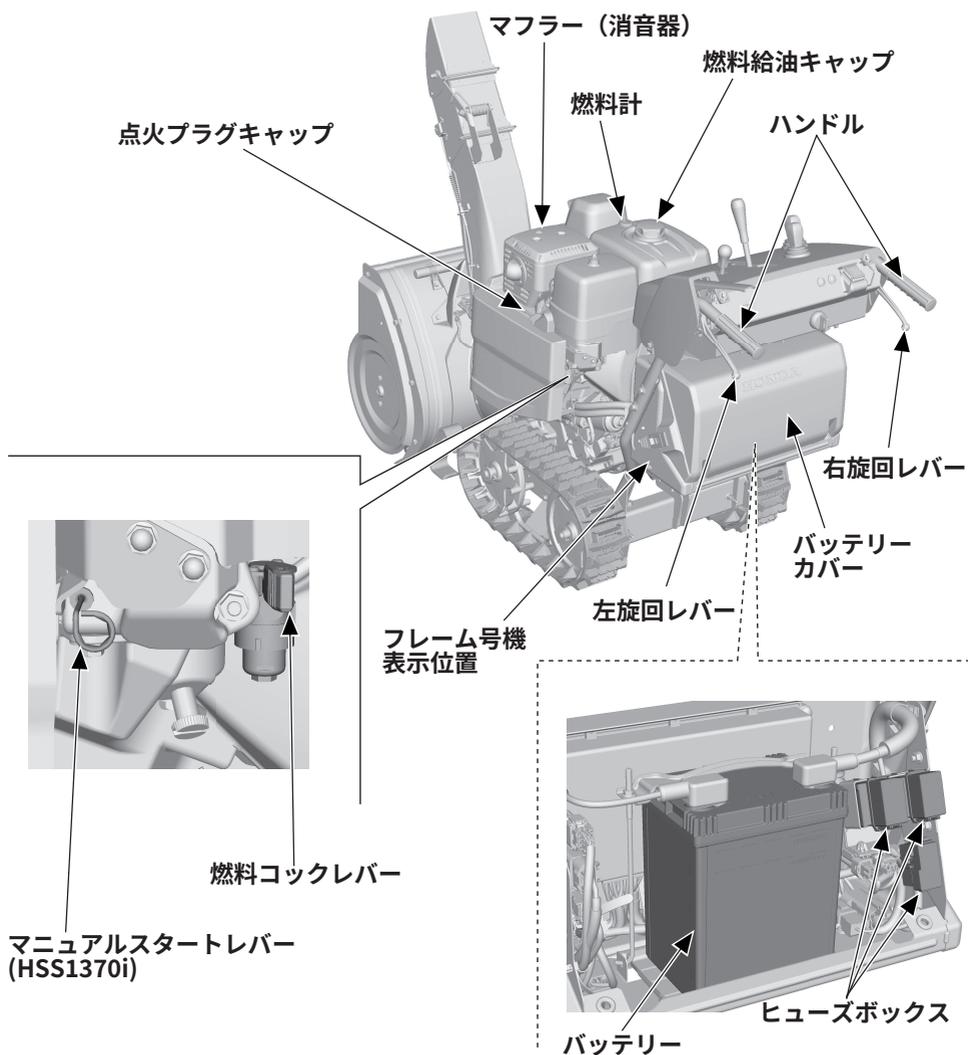
各部の名称と取扱いをおぼえましょう

各部の名称

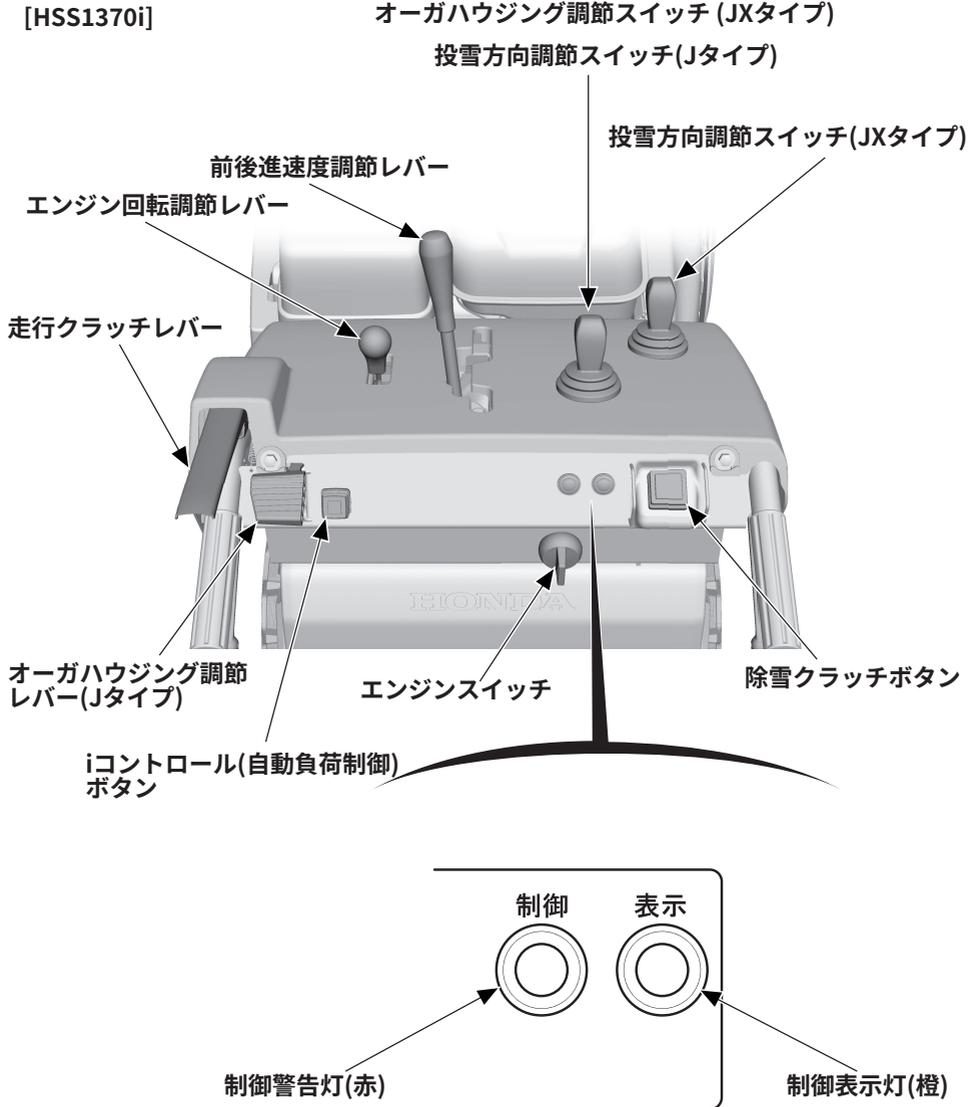


【イラストはHSS1370i JXタイプ】

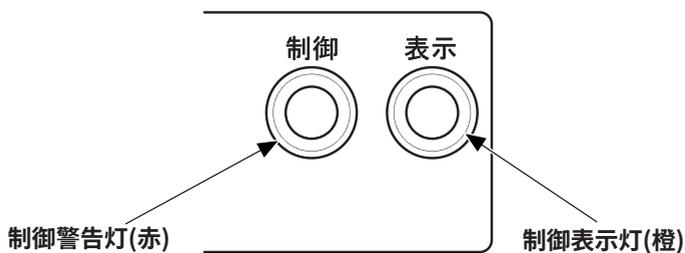
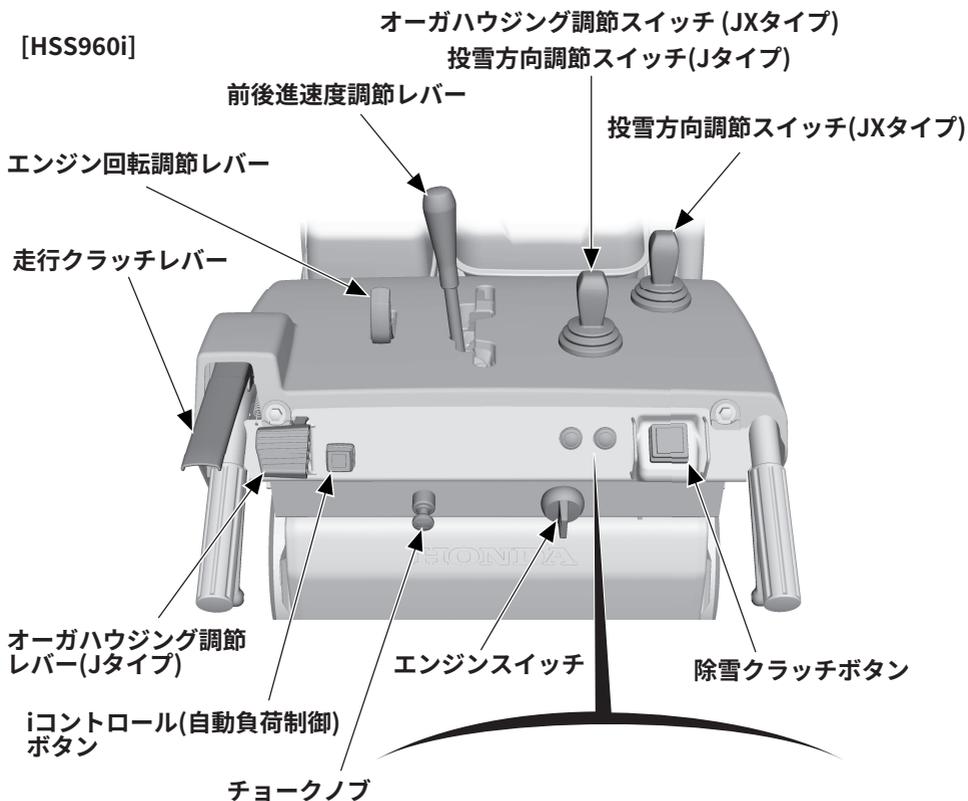
各部の名称と取扱いをおぼえましょう



各部の名称と取扱いをおぼえましょう



各部の名称と取扱いをおぼえましょう



各部の名称と取扱いをおぼえましょう

各部の取扱い

エンジンスイッチ

エンジンを始動、運転、停止するときに操作します。

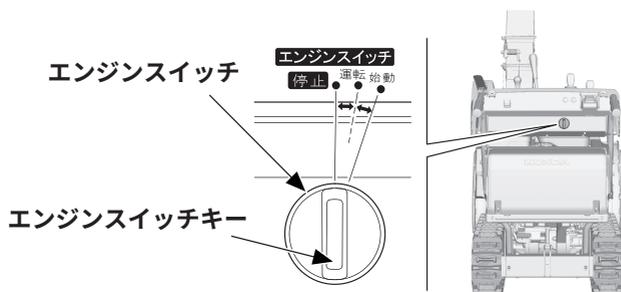
停止 …… エンジンを停止する位置です。

(エンジンスイッチキーの抜き取り、差しこみができます。)

運転 …… エンジン運転中の位置です。各電気系統がつながります。

(“停止” からこの位置にしたとき、カチカチと音が鳴ります。)

始動 …… エンジンを始動させる位置です。スターターモーターが回ります。
エンジンスイッチキーから手を放すと自動的に“運転”の位置に戻ります。

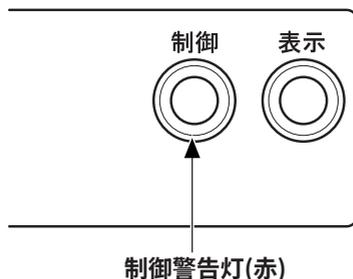


制御警告灯（赤）

除雪機の故障を制御警告灯の点灯により知らせます。

制御警告灯（赤）は、エンジンスイッチを“運転”にすると数秒間点灯し、消えるのが正常です。点灯しない場合はお買いあげ販売店またはサービス指定店で点検を受けてください。

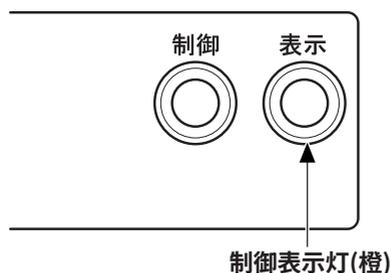
万一、運転中に点灯した場合は、安全な場所に移動してエンジンを停止し、お買いあげ販売店またはサービス指定店で点検を受けてください。



各部の名称と取扱いをおぼえましょう

制御表示灯（橙）

除雪機の故障や状態を制御表示灯（橙）の点灯と点滅により知らせます。



《制御表示灯の点灯》

制御表示灯（橙）は、エンジンスイッチを“運転”にすると点灯し、エンジン始動後に消灯すれば正常です。点灯しない場合はお買いあげ販売店またはサービス指定店で点検を受けてください。

運転中にエンジンが停止した場合も点灯します。再度エンジンを始動し、制御表示灯（橙）が消灯することを確認してください。

《制御表示灯の点滅》

雪質など雪の状態によってはモーター保護機能が働き、制御表示灯（橙）が3回点滅します。（65頁参照）

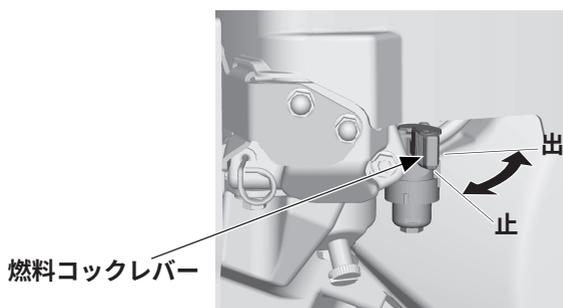
運転中に点灯または点滅した場合は、安全な場所に移動してエンジンを停止し、故障診断表（99頁参照）の説明を参考に対処してください。

除雪クラッチボタンまたは走行クラッチレバーを操作した状態でエンジンスイッチを“運転”にすると制御表示灯（橙）が点滅します。除雪クラッチボタンまたは走行クラッチレバーの操作をやめると制御表示灯（橙）が点灯し、正常な状態になります。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

燃料コックレバー

燃料タンクからキャブレターまでの燃料通路を開閉するときに操作します。操作は確実に“止”“出”の位置に合わせます。

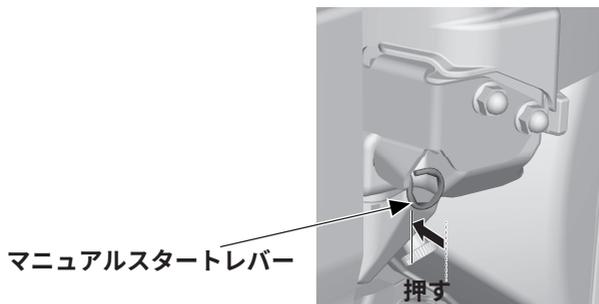


⚠ 警告

本機を運搬するときや、保管および点検整備時に本機が傾く可能性のある場合には、燃料漏れを防ぐためにレバーを“止”の位置に合わせてください。こぼれた燃料が引火することがあります。

マニュアルスタートレバー (HSS1370i)

本機はオートチョークですが、氷等の付着によりオートチョークが働かなくなり、エンジンが始動しない場合に操作します。(49頁参照) 通常の始動時は、操作しません。

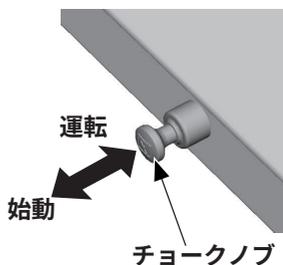
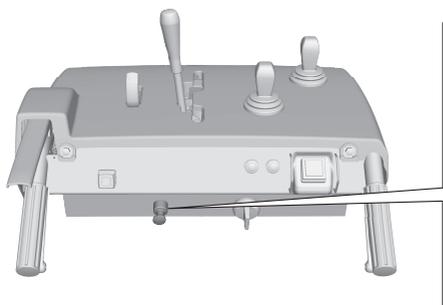


各部の名称と取扱いをおぼえましょう

チョークノブ (HSS960i)

エンジンが冷えているときに操作します。

- エンジン始動時、エンジンが冷えているときは、“始動”の方へいっぱい引っ張ってください。
- エンジン始動時、エンジンが暖まっているときは、“運転”の位置にしてください。



各部の名称と取扱いをおぼえましょう

エンジン回転調節レバー

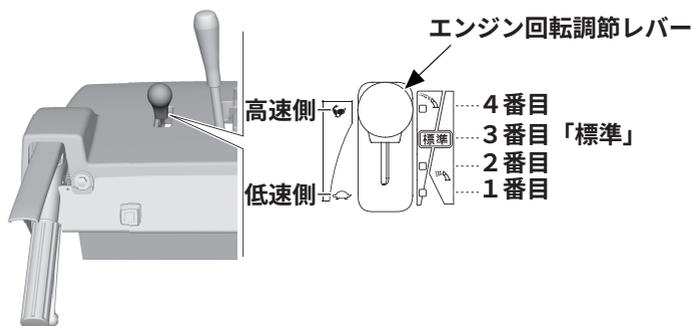
[HSS1370i]

エンジン回転調節レバーは、エンジン回転／投雪距離を調節するときに操作します。作業環境に応じ調節し設定してください。

- 設定に迷う場合、3番目「標準」の位置にし、除雪作業を行いながら適切な投雪距離に調節することを推奨します。

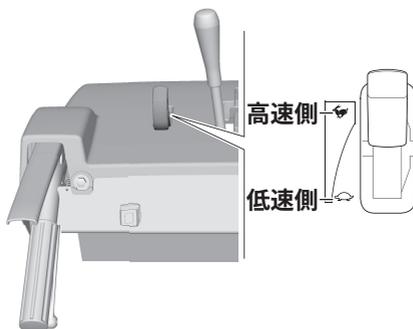
エンジン回転調節レバー		エンジン回 転数	投雪距離	除雪量*
高速側	4番目	速い	長い	少ない
↓	3番目「標準」			
	2番目	遅い	短い	少ない
低速側	1番目			

*除雪量は「エンジン回転」でなく「エンジントルク（エンジンの力強さ）」によります。「エンジントルク」は「エンジン回転」と異なり「2番目」が最大です。



[HSS960i]

エンジン回転を調節するときに操作します。状況に応じて回転数を調節してください。

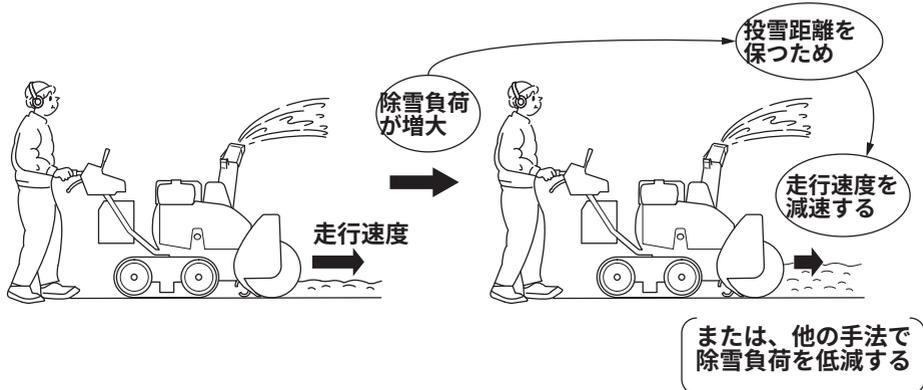


各部の名称と取扱いをおぼえましょう

除雪負荷と投雪距離について：

設定されたエンジン回転は、除雪負荷が増大すると遅くなります。投雪距離を一定に保つためには、「走行速度の減速」など作業方法を変更し、除雪負荷を低減してください。（69頁参照）

雪		除雪負荷	エンジン回転／投雪距離を一定に保つ方法	
量	重さ		走行速度	除雪幅
多い ↓ 少ない	重い ↓ 軽い	増大 ↓ 減少	減速する ↑	狭くする ↑



各部の名称と取扱いをおぼえましょう

前後進速度調節レバー

本機を前進、後進するときには操作します。

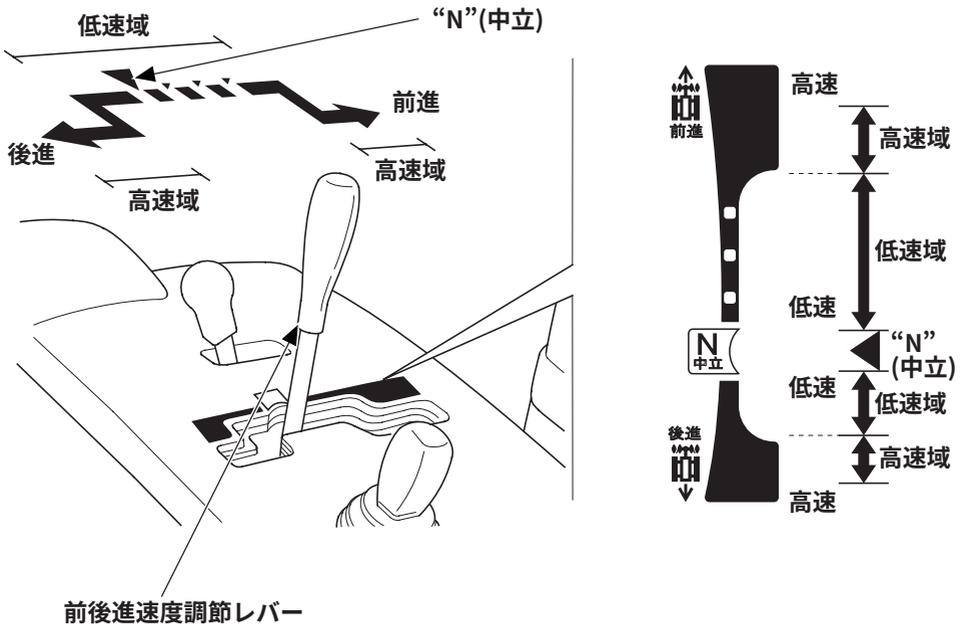
低速域、高速域に区切ってあり、前進、後進の前後進速度調節レバーの位置により前進、後進の速度を無段階に調節することができます。

前進するときには・・・“N”（中立）の位置から前方へ徐々に動かします。

後進するときには・・・“N”（中立）の位置から後方へ徐々に動かします。

本機を使用しないときは“N”（中立）の位置にしてください。

- 雪質に合わせて低速域内で前後進速度調節レバーの位置を選び、速度を設定し、除雪作業をします。
- 移動時は路面や周囲の状況に合わせて速度を設定してください。

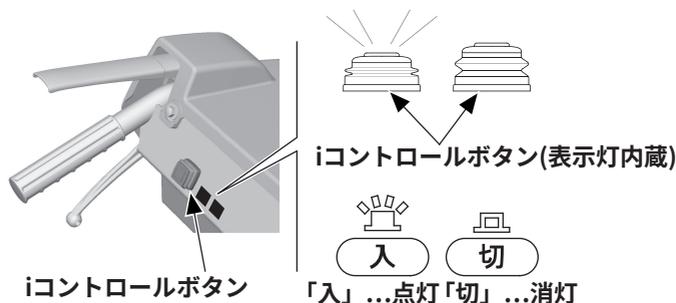


本機は後進時の最高速度を制限することができます。必要な場合はお買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

iコントロール（自動負荷制御）ボタン

除雪作業時の本機の前進速度などを自動調節にするときに操作します。iコントロールボタンを押し、表示灯（緑）が点灯すると、iコントロールが「入」（作動状態）になります。再度ボタンを押して表示灯（緑）が消灯すると、iコントロールが「切」（解除）になります。



iコントロールの制御内容

[HSS1370i]

- 除雪作業の負荷に応じてエンジン回転数が一定になるように、前進速度が自動的に調節されます。エンジン回転数が一定に保たれるため、投雪距離の変化が少なくなります。
- 前後進速度調節レバーを”N”（中立）、後進時、除雪クラッチを「切」にしたとき、エンジン回転数が自動的に下がります。また、前後進速度調節レバーを「前進」にし、除雪クラッチを「入」にしたときは、エンジン回転数が自動的に復帰します。
後進時にもエンジン回転数も自動的に下がります。
- 後進時にオーガが自動的に上昇します（JXタイプ）

[HSS960i]

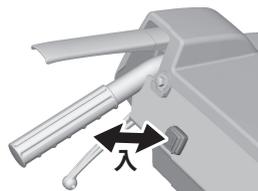
- 除雪作業の負荷に応じて前進速度が自動的に調節され、オーガの浮き上がりを抑制します。負荷が大きいときもエンジン回転数の低下が抑えられるため、負荷に応じたエンジン回転数の調節が不要です。
- 後進時にオーガが自動的に上昇します（JXタイプ）

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

iコントロール「入」

[HSS1370i]

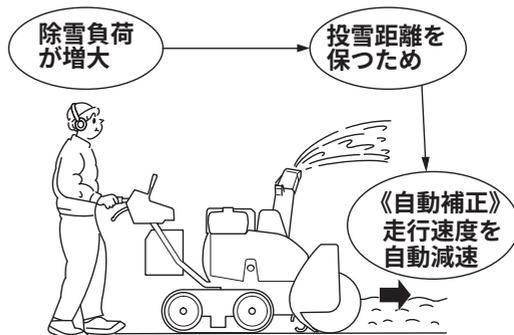
除雪負荷が増大すると「設定されたエンジン回転／投雪距離」を保つために、走行速度を自動的に減速します。



iコントロールボタン



「入」...点灯



[HSS960i]

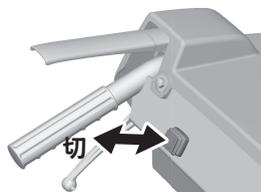
除雪負荷が上昇すると、走行速度を自動で減速し、オーガの浮き上がりを低減します。

iコントロール「切」

除雪負荷が大きくなると、エンジン回転／投雪距離が低下してオーガの浮き上がりが増加します。

エンジン回転／投雪距離を一定に保ち、オーガの浮き上がりを防ぐためには、除雪負荷を低減させるか、走行速度を減速させてください。

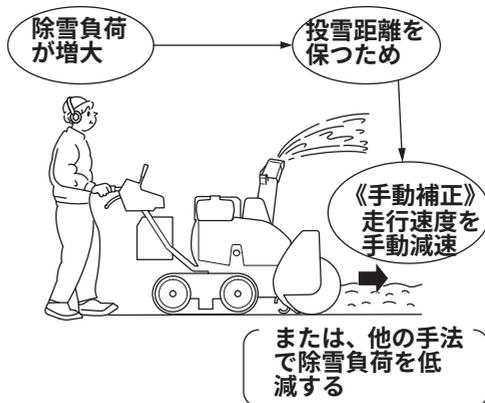
- 自動調節は行いません。エンジン回転と走行速度は除雪作業の負荷に応じて調節が必要です。



iコントロールボタン



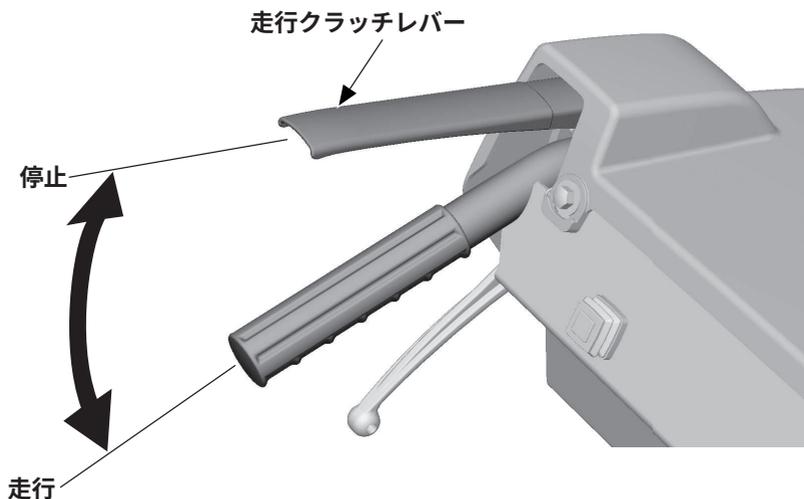
「切」...消灯



各部の名称と取扱いをおぼえましょう

走行クラッチレバー（デッドマンクラッチ機構）

走行クラッチレバーを握ると走行し、放すと止まります。



- 「デッドマンクラッチ機構」とはレバーから手を放すとレバーが戻り、オーガや除雪機が自動的に停止する安全機構です。

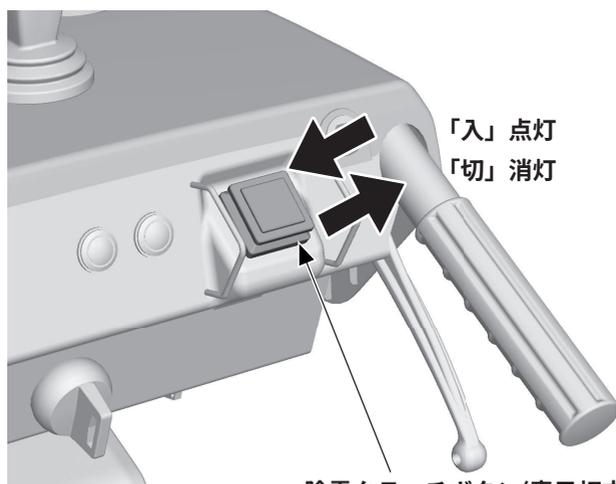
⚠ 警告

走行クラッチレバーを固定したまま除雪作業や運転を絶対に行わないでください。重大な事故につながるおそれがあります。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

除雪クラッチボタン

オーガとブロワが回転および停止します。オーガとブロワが回転しているときは、表示灯（緑）が点灯します。



除雪クラッチボタン(表示灯内蔵)

- エンジンが運転しているときに除雪クラッチボタンを押すと、表示灯（緑）が点灯しオーガとブロワが回転します。除雪クラッチボタンを離すと、表示灯（緑）が消灯し数秒後にオーガとブロワが停止します。
- 除雪クラッチボタンを押し続けると、約3秒後に保護機能が働き、オーガとブロワが停止します。
- 走行クラッチレバーを握りながら除雪クラッチボタンを押したときや、除雪クラッチボタンを押しながら走行クラッチレバーを握ったときは、除雪クラッチボタンを離してもオーガとブロワが回転し続けます。走行クラッチレバーを離すか、除雪クラッチボタンを再度押すとオーガとブロワは停止します。
- 除雪クラッチボタンを押してもオーガとブロワが回転しない場合や、表示灯（緑）が点灯しない場合は、お買いあげ販売店またはサービス指定店で点検を受けてください。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

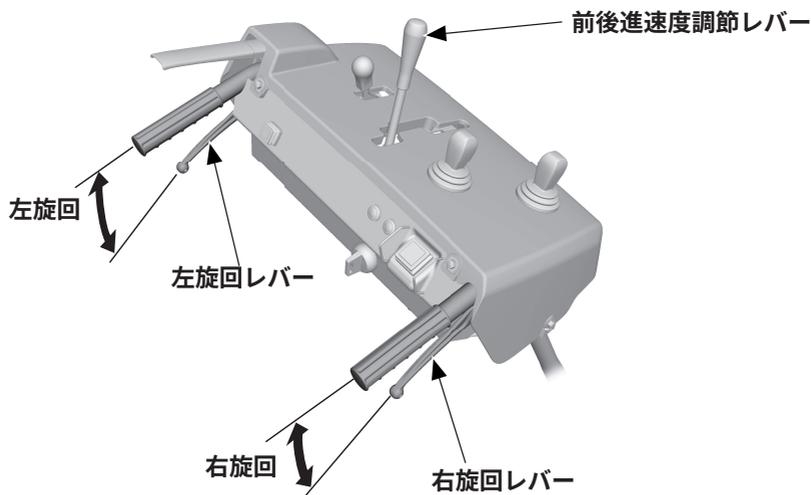
旋回レバー

本機の方向を変えるときに操作します。

走行中に旋回したい方向のレバーを握ると、握った方向に本機は旋回します。また、前後進速度調節レバーの位置および旋回レバーの握り込み量により旋回径が変わります。

右旋回・・・・・・・・・・・・・・・・右旋回レバーのみを握ります。

左旋回・・・・・・・・・・・・・・・・左旋回レバーのみを握ります。



⚠ 警告

- 旋回するときは、十分スピードを落としてください。雪の上での作業は滑りやすく転倒するおそれがあります。
- 旋回レバーを操作するときは、周囲の安全を十分確認してください。旋回レバーの握り込み量によっては本機の方向が急激に変化します。ハンドルや操作パネルに体が触れないよう注意してください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 路面の状況（アスファルト・雪・傾斜・凸凹等）により旋回径および運転感覚が変わる場合があります。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

投雪方向調節スイッチ

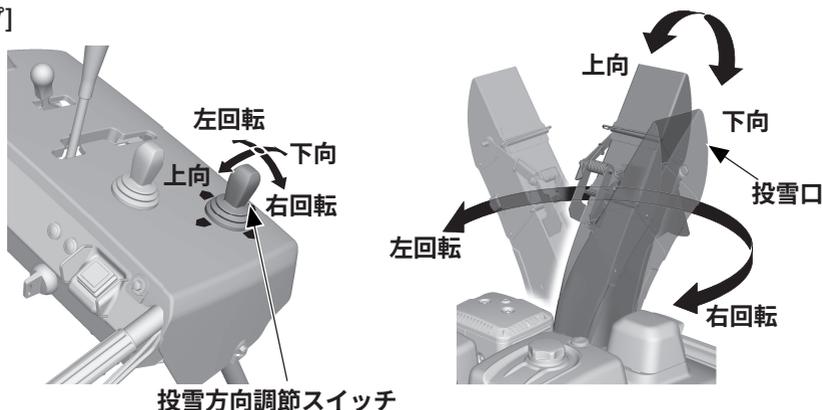
投雪角度と方向を変えるときに操作します。

エンジンスイッチを“運転”の位置にし、スイッチを操作することによって投雪口を上下、左右に無段階に調節することができます。

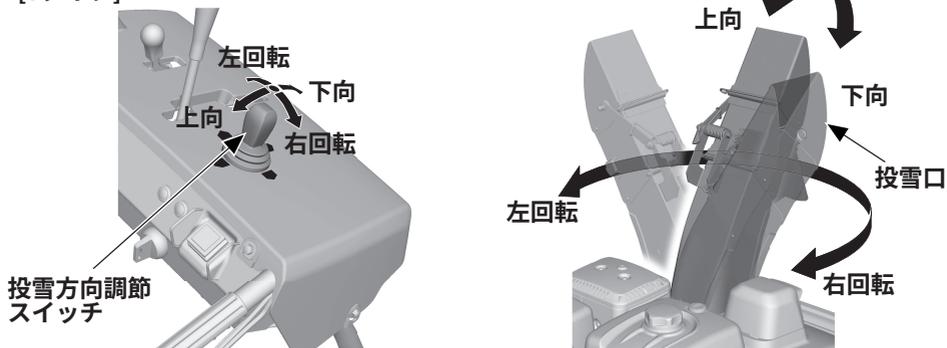
投雪方向調節スイッチはエンジンが運転しているときに操作してください。エンジン停止中に操作するとバッテリーが消耗します。

- 投雪口が固着した状態で投雪方向調節スイッチを操作し続けると、モーターの保護機能が働き、動かなくなることがあります。固着の原因となった凍結や異物を取除き、時間を空けてから再度操作してください。

[JXタイプ]



[Jタイプ]



▲ 注意

投雪方向や距離を変えるときには、人や建物などに注意して行ってください。

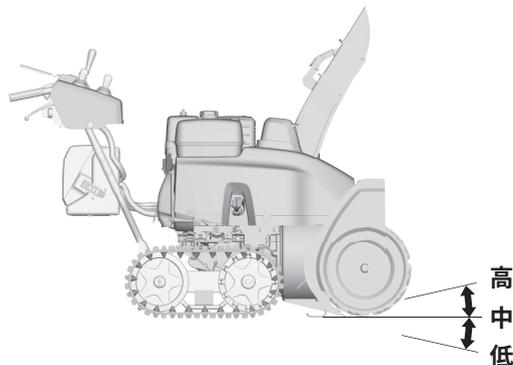
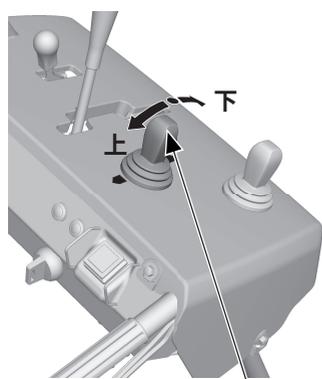
各部の名称と取扱いをおぼえましょう

オーガハウジング調節スイッチ(JXタイプ)

オーガの高さを変えるときに調節してください。
高さを上下無段階に調節することができます。(51頁参照)

取扱いのポイント

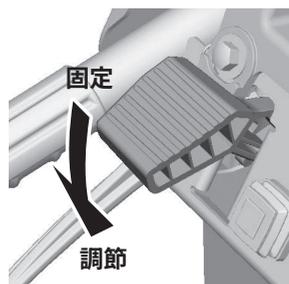
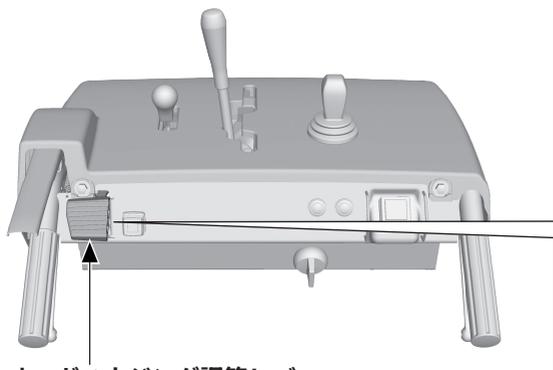
オーガハウジング調節スイッチはエンジンが運転しているときに操作してください。エンジン停止中に操作するとバッテリーが消耗します。



オーガハウジング調節スイッチ

オーガハウジング調節レバー(Jタイプ)

オーガハウジング調節レバーを押し下げながらハンドルを上下させることで、オーガの高さを調節できます。
高さは無段階に調節することができます。(52頁参照)

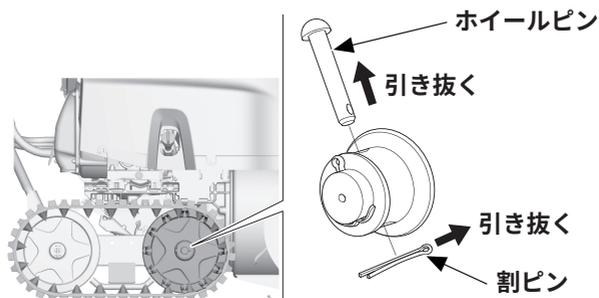


オーガハウジング調節レバー

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

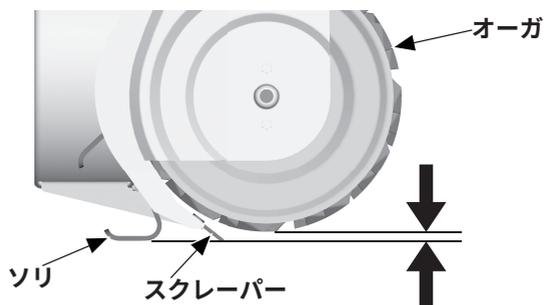
ホイールピン

エンジンやモーターの故障などで本機が動かなくなったときは、左右前輪のホイールピンを引き抜くと、クローラーが空転状態となり押したり、引いたりして移動することができます。（108頁参照）



ソリ、スクレーパー

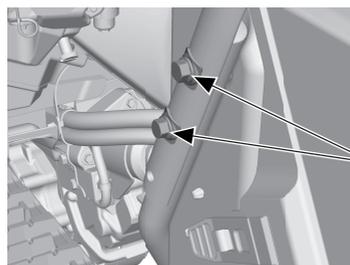
除雪する路面の状態に合わせて調節してください。ソリは除雪部と路面との高さを決め、スクレーパーは除雪面をならします。調節のしかたは、42頁を参照してください。



各部の名称と取扱いをおぼえましょう

ハンドル高さ調節ボルト

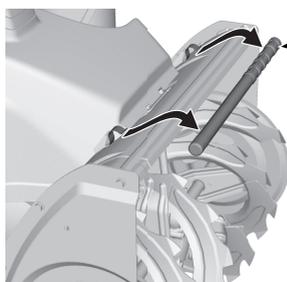
作業者に合わせて2段階にハンドルの高さを調節することができます。ハンドル高さの調節が必要な場合は、お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください。



ハンドルの高さ調節ボルト
(左右両側)

雪かき棒

雪がオーガハウジング内や投雪口に詰まったときに使用します。雪かき棒を使用した後は汚れを拭き取り、きれいにしてから必ず元の位置にセットしてください。



雪かき棒

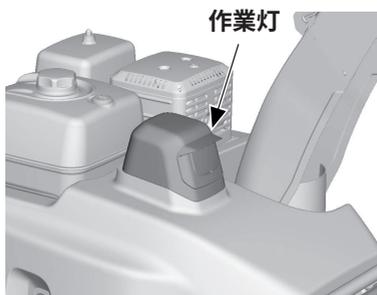
⚠ 警告

- オーガハウジング内および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜き、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。
- エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

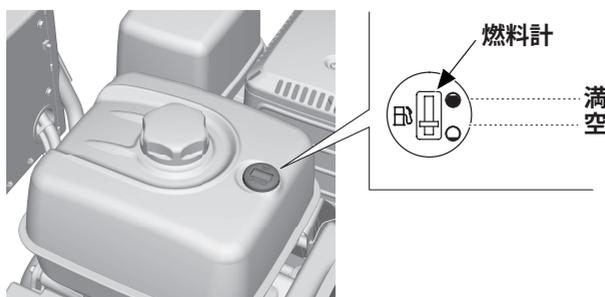
作業灯

エンジンスイッチを“ 運転 ”の位置にすると点灯します。エンジンを始動させずに作業灯を点灯させ続けると、バッテリーが消耗して使用できなくなるおそれがあります。作業灯が点灯しない場合、故障のほかバッテリーに異常がある可能性がありますので、バッテリーの点検も実施してください。(37頁参照)



燃料計

燃料の残量を示します。
燃料計の針が“ 空 ”に近づいたら早目に燃料を補給してください。



作業前に点検しましょう

⚠ 警告

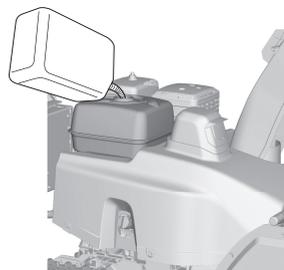
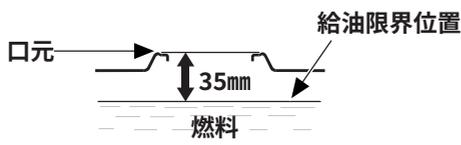
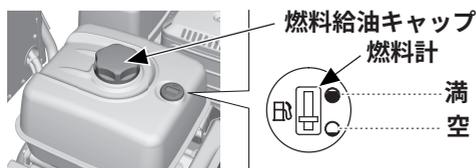
- 安全のため、作業前に必ず点検を実施してください。
- 点検は平坦で安定した場所で行ってください。
- エンジンを始動する必要のない点検を行うときは、エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜いてください。
- 異常が認められたときは、必要な整備を行ってください。ご自身で作業できない場合は、お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください。

エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

燃料の点検

点検

燃料計の針が“満”の位置にあることを確認します。少ないときには図の給油限界位置まで補給してください。



補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 補給は燃料給油キャップを外し、燃料膨張を考慮し口元から35mm以上の余裕を取ってください。
- 補給は本機の右側（燃料タンク側）で行ってください。
- 補給後、燃料給油キャップを確実に締付けてください。

取扱いのポイント

ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。古くなったガソリンは故障の原因となります。（90頁参照）

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 屋外の換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火し死傷するおそれがあります。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ふき取った布きれなどは火災と環境に注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。

取扱いのポイント

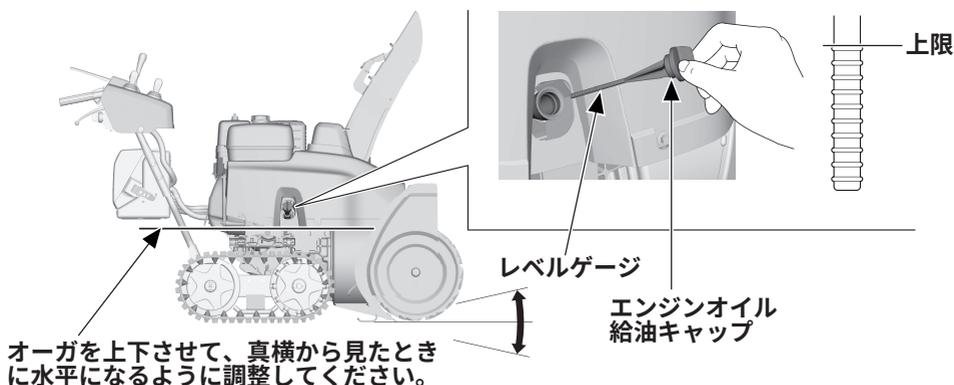
- 除雪時に燃料を補給する場合は、燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。燃料タンク内に雪が入ると、エンジン不調の原因になります。
- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

作業前に点検しましょう

エンジンオイルの点検・補給

点検

1. オーガ位置を調整し、真横から見たときにエンジンカバーの下端部が水平状態になるように本機を調整します。
2. エンジンオイル給油キャップを外します。オイル給油キャップをねじこまず差し込んで、レベルゲージの上限までオイルがあることを確認してください。



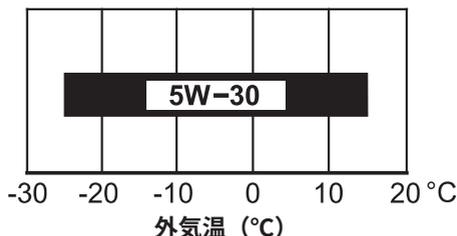
補給

推奨オイル：

Honda 純正汎用寒冷地オイル（SAE 5W-30）またはAPI 分類SE 級以上のSAE 5W-30 エンジンオイルをご使用ください。

- 少ないときには新しいオイルを上限まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換方法は78頁参照）

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



取扱いのポイント

- エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
- 補給、交換時にこぼれたオイルは、布きれなどでふき取ってください。

バッテリーの点検

⚠ 警告

- バッテリーを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリーの劣化を早めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。破裂（爆発）の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリーの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側から外し、付属のチューブを端子に取付け、保護してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- 本機に12 V以外の接続はしないでください。引火、爆発により重大な傷害に至る可能性があります。
- 端子部の取付けがゆるい状態で使用すると、作業灯、警告灯、表示灯が点灯しなかったり、PCU（コンピュータ）が故障判定することがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

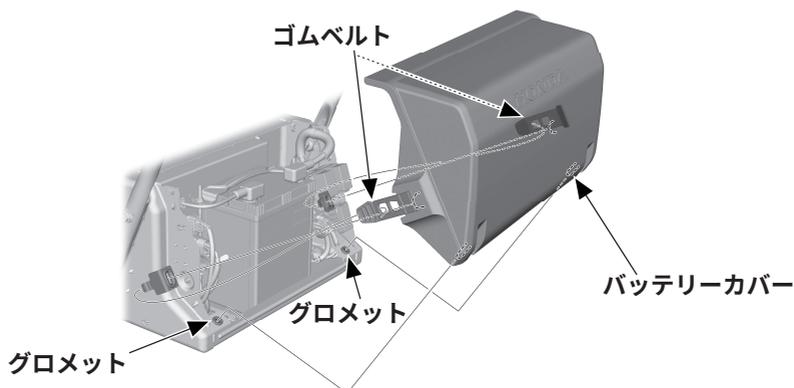
取扱いのポイント

- 長時間使用しない場合には、⊖バッテリー端子を外しておいてください。長期間保管中は、6か月に一度補充電を行ってください。
- バッテリー補充液（蒸留水）を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限（UPPER LEVEL）以上入れないでください。万一バッテリー液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。

作業前に点検しましょう

バッテリーカバーの取外し・取付け

1. エンジンスイッチを“停止”の位置にし、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. バッテリーカバーの左右のゴムベルト2個を取外して、バッテリーカバーを手前に引き、上の方向に取外します。



3. 取付けるときは、バッテリーカバー下部2か所の突起とパネル下のグロメットを合わせてバッテリーカバーを取付けます。
4. バッテリーカバーの左右のゴムベルトを確実に取付けてください。

取扱いのポイント

カバー類を取外したまま屋外に放置しないでください。故障の原因となります。

作業前に点検しましょう

バッテリー液の点検

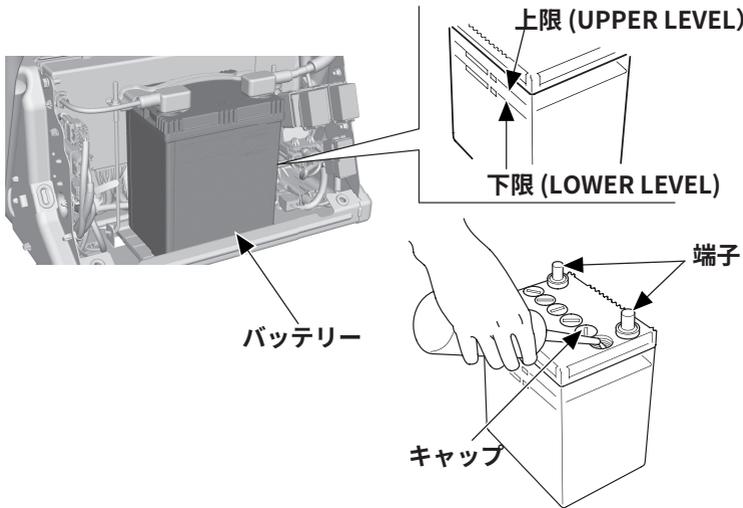
バッテリーカバーを外してバッテリーの液面が上限（UPPER LEVEL）にあることを確認してください。

同時にキャップの通気孔のつまり、端子のゆるみがないことを確認してください。バッテリー液が下限（LOWER LEVEL）に近い場合は、バッテリー補充液（蒸留水）を補給してください。

バッテリー液の補給

バッテリーを外し、キャップを外して、バッテリー補充液（蒸留水）を上限（UPPER LEVEL）まで補給します。

バッテリーの取外し・取付けは、40頁の手順で行ってください。



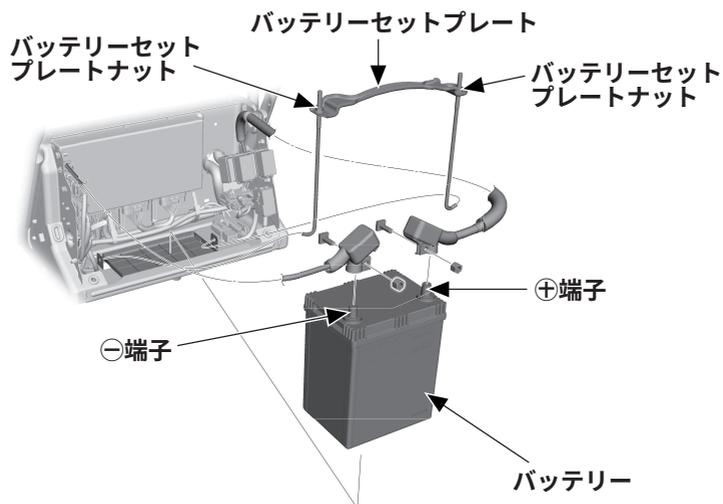
端子の手入れ

端子のゆるみ、腐食は接触不良、作業灯、警告灯、表示灯の故障の原因となります。ゆるんでいるときは締付けてください。端子に白い粉がついているときは、バッテリーを取外しぬるま湯で清掃してください。端子部が腐食している場合は、ワイヤーブラシかサンドペーパーでみがきます。清掃が終わったら、端子接続後グリスを塗布してください。

作業前に点検しましょう

バッテリーの取外し・取付け

1. バッテリーカバーを外します。
2. バッテリーのバッテリー \ominus 端子の接続を外します。
3. バッテリーのバッテリー \oplus 端子の接続を外します。



4. バッテリーセットプレートのナットをゆるめて、バッテリーを引き出します。
5. 取付けるときは、取外しの逆の手順で取付けます。

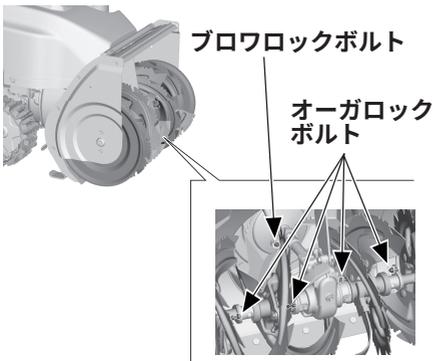
オーガ／ブロワロックボルトの点検

⚠ 警告

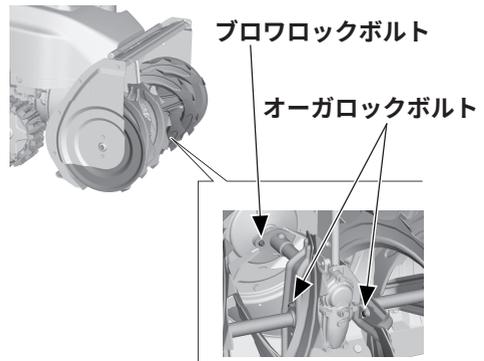
オーガ、ブロワを点検するときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜いてください。
手を使って回転部を確認するときは、保護手袋を着用してください。ケガをするおそれがあります。

オーガ／ブロワロックボルトのゆるみ、折れがないことを確認します。
ロックボルトは、石のかみ込みなどの異常な負荷が加わったときに、本機の損傷を防ぐために折れるしくみになっています。
もし折れている場合は、83頁の手順に従って交換してください。

[JXタイプ]



[Jタイプ]



作業前に点検しましょう

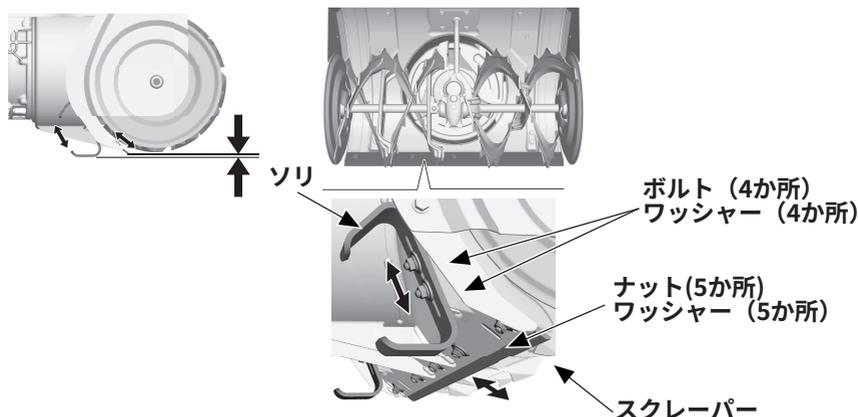
ソリ、スクレーパーの調節

⚠ 警告

ソリ、スクレーパーを調節するときは、必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜いて行ってください。

除雪する路面の雪の状態に合わせて、路面との高さを調節します。

1. 本機を平坦な場所に置き、オーガハウジング調節スイッチ（JXタイプ）またはオーガハウジング調節レバー（Jタイプ）を操作して、除雪部を水平状態のまま路面に接地させます。
2. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
3. 《ソリ》
ソリは左右にあり、ボルトをゆるめ調節します。
《スクレーパー》
ナット（5か所）をゆるめ調節します。

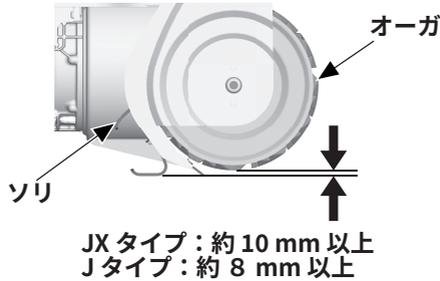


- ソリおよびスクレーパーは左右同じ高さに調節してください。
- ワッシャーの座面全体がオーガハウジングに接するように、上図のように取付けてください。
- 調節後は必ずボルト・ナットを確実に締付けてください。
- 段切作業用に調節した状態で路面出し作業を行なわないでください。除雪部に悪影響をあたえます。

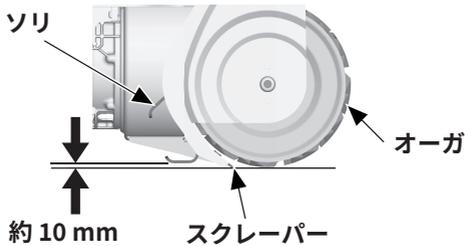
作業前に点検しましょう

【ソリの調節はこんなときに行います】

- 回転するオーガが路面に接触して困る場合：
- 砂利などが多い路面を除雪する場合：
オーガを路面から持ち上げた状態で、ソリを固定します。
JXタイプ：約 10 mm 以上
Jタイプ：約 8 mm 以上



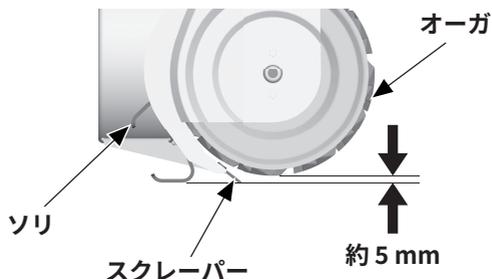
- 屋根から落ちた固い雪などを崩したい場合：
- 締まった根雪などで、本機が食い込まず持ち上げてしまう場合：
オーガを路面に接地させた状態で、ソリを路面から約 10 mm 程度持ち上げた状態でソリを固定します。
＊ この場合は、路面にオーガが接触して路面を傷つけたり石飛びのおそれがありますので、注意してご使用ください。
また、一般的な条件で使用する場合は、元に戻してから使用してください。



作業前に点検しましょう

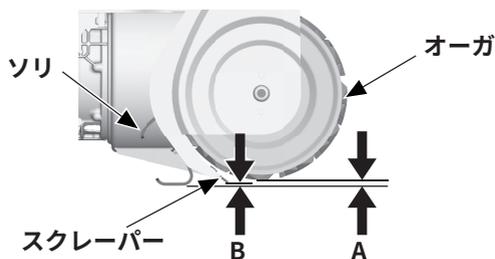
【スクレーパーの調節はこんなときに行います】

- 除雪した後に雪が残ってしまい、もっときれいに仕上げたい場合：
オーガを路面から約5 mm 程度持ち上げた状態で、スクレーパーを路面に接地させ、スクレーパーを固定します。ソリはスクレーパーに合わせて調節します。



標準位置（工場出荷状態）は、次のように調節されています。

	JXタイプ	Jタイプ
A(オーガ)	8 - 12 mm	4 - 8 mm
B (スクレーパー)	2 - 4 mm	2 - 4 mm

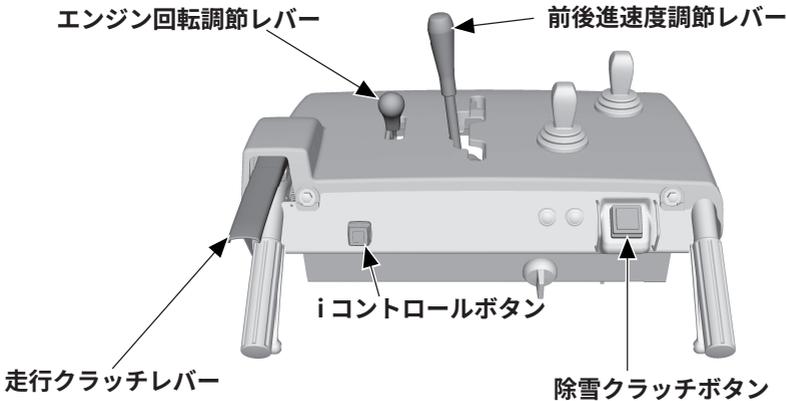


走行クラッチレバー・除雪クラッチボタンの点検

走行クラッチレバー、除雪クラッチボタンが正しく作動することを確認します。異常がある場合は直ちにお買いあげ販売店またはサービス指定店に連絡し、点検・整備を受けてください。

⚠ 警告

これらの点検はエンジンを始動し、本機やオーガを動かして確認します。点検する前に本機の周囲に人や障害物がないことを確認してください。また投雪口が、人や窓ガラスなどの方向に向いていないことを確認してください。



《走行クラッチレバーの点検》

1. 本機を平坦な場所に置き、前後進速度調節レバーが“N”（中立）の位置になっていることを確認し、エンジンを始動します。
2. 地面にあたらぬ位置までオーガを上げます。
3. iコントロールを“切”（解除）にします。
4. エンジン回転調節レバーを“低速”の位置にします。
5. 走行クラッチレバーを握ります。
6. 前後進速度調節レバーを“前進 低速”の方向へ動かします。
→ 本機が低速で前進すれば正常です。
7. 走行クラッチレバーを放します。
→ 本機が停止すれば正常です。
8. 前後進速度調節レバーを“N”（中立）の位置に戻します。

作業前に点検しましょう

《除雪クラッチボタンの点検》

1. 前後進速度調節レバーが“N”（中立）の位置になっていることを確認し、エンジンを始動します。
2. エンジン回転調節レバーを“低速”の位置にします。
3. 除雪クラッチボタンを押します。（表示灯（緑）が点灯）
→ オーガが回転すれば正常です。
 - ・ 除雪クラッチボタンを約3秒以上押し続けると保護機能が働き、オーガとブロワが停止します。
4. 除雪クラッチボタンを放します。（表示灯（緑）が消灯）
→ オーガの回転が停止すれば正常です。
5. 走行クラッチレバーを握ります。
6. 除雪クラッチボタンを押して放します。（表示灯（緑）が点灯）
→ オーガが回転し、除雪クラッチボタンを放してもオーガが回転したままになれば正常です。
7. 前後進速度調節レバーを“前進 低速”の方向へ動かします。
→ オーガが回転したまま、本機が低速で前進すれば正常です。
8. 走行クラッチレバーを放します。（表示灯（緑）が消灯）
→ オーガの回転が停止し、本機が走行停止すれば正常です。
9. 前後進速度調節レバーを“N”（中立）の位置に戻します。

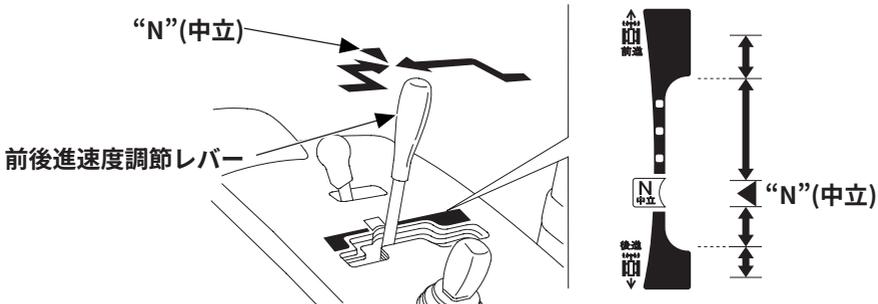
その他の点検

- 除雪部（オーガ、ブロワ）および投雪口に異物がないことを点検してください。
- ソリ、スクレーパーの点検（42頁参照）
- 次の点検も忘れずに行ってください。
 1. 各部の締付け・・・・・・・・ゆるみ、ガタがないこと
 2. 警告灯の表示状態・・・・・・・・エンジン始動後点灯、点滅し続ける警告灯はないこと
 3. 各種スイッチおよび各部の作動状態・・・・・・・・正しく作動すること
 4. 前回使用時の異常箇所・・・・・・・・整備されていること
その他の異常を感じたら、直ちにお買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください。

⚠ 警告

- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。

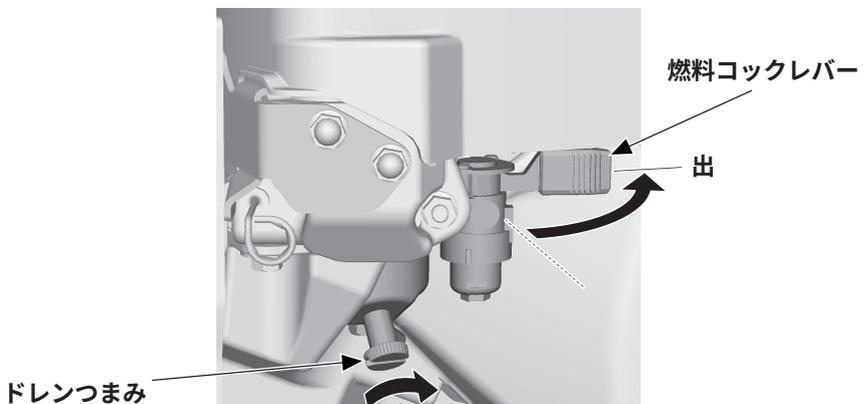
1. 前後進速度調節レバーが“N”（中立）の位置にあることを確認します。



2. ドレンつまみが確実にしまっていることを確認し、燃料コックレバーを“出”の位置に合わせます。

⚠ 警告

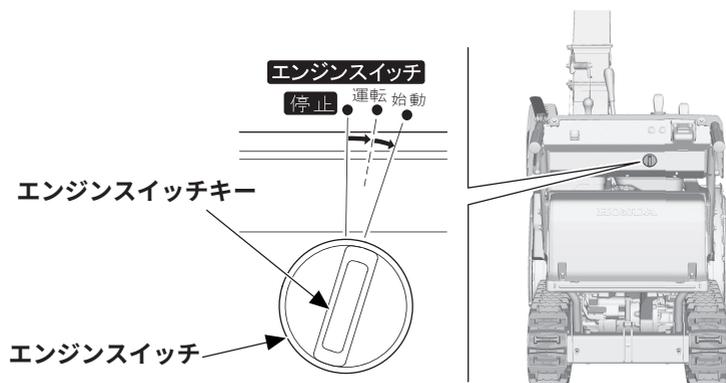
ドレンつまみがゆるんでいると燃料が漏れる場合があります危険です。



エンジンのかけかた

3. エンジンスイッチを“始動”の位置まで回し、エンジンを始動します。エンジンが始動したらエンジンスイッチキーから手を放してください。“運転”の位置に戻ります。

走行クラッチレバーを握っているときや、除雪クラッチボタンの表示灯（緑）が点灯しているときは、エンジンが始動しません。（エンジン始動インターロック）



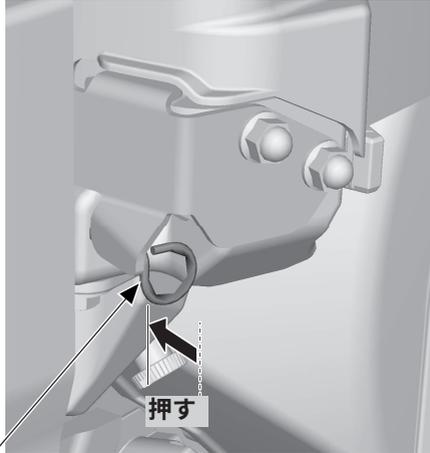
取扱いのポイント

エンジンスイッチを“始動”の位置まで回して5秒以内にエンジンが始動しないときは、10秒ほど間隔を空けてから再度回してください。

エンジンのかけかた

[HSS1370i]

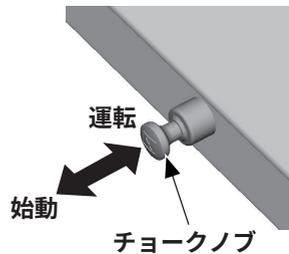
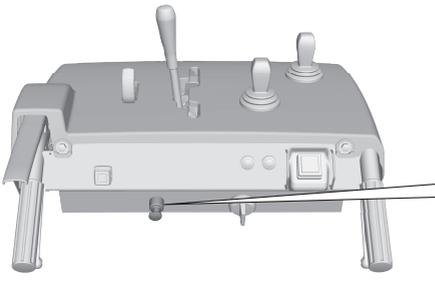
- 本機はオートチョークですが、氷等の付着によりオートチョークが働かない場合があります。
- エンジンの始動を5回行っても始動しない場合は、マニュアルスタートレバーを1回だけ押してから始動させてください。
- 上記の操作を行ってもエンジンが始動しない場合は、マニュアルスタートレバーを押したままで始動させてください。



マニュアルスタートレバー

[HSS960i]

- エンジン始動時、エンジンが冷えているときは、チョークノブを“始動”の方へいっぱい引っ張ってください。
- エンジン始動時、エンジンが暖まっているときは、チョークノブを“運転”の位置にしてください。



運転操作のしかた

除雪をする前に必ず“安全にお使いいただくために”の項目を良くお読みになり除雪作業に取掛かってください。

警告

- 除雪作業をするときは、防寒手袋、帽子、防寒服、滑りにくい防寒靴など防寒用の身支度をしてください。
- 本機の操作を行う場合には本機後方中央部に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。

取扱いのポイント

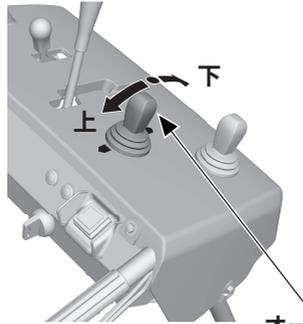
使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください。

除雪作業は雪質など雪の状態に影響されます。最適な除雪作業をするため、必要に応じてソリ、スクレーパーの高さを調節してください。（42頁参照）

1. オーガハウジング高さの調節

[JXタイプ]

1. オーガハウジング調節スイッチを前後に操作します。オーガハウジングの高さは無段階に調節できます。
上げるとき…オーガハウジング調節スイッチを“上”方向に引きます。
下げるとき…オーガハウジング調節スイッチを“下”方向に押します。
2. オーガハウジング調節スイッチを放すとその位置でオーガハウジングが固定されます。



オーガハウジング調節スイッチ

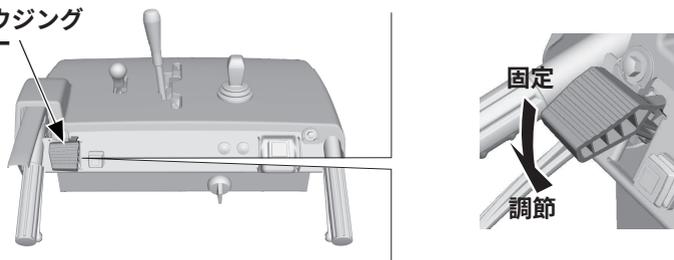
- iコントロールが「入」のときは、後進時に自動的にオーガハウジングが上昇します。
- オーガハウジングが自動的に上昇しない様にするには、iコントロールを「切」にしてください。
- オーガハウジングが自動的に上昇している時、オーガハウジングの動きを止めるには、オーガハウジング調節スイッチの上下いずれかを操作してください。
- オーガハウジング調節スイッチを頻繁に操作すると保護装置が働き、オーガハウジング高さの調節ができなくなります。このときは操作をやめ、しばらく待ってから再度操作してください。

運転操作のしかた

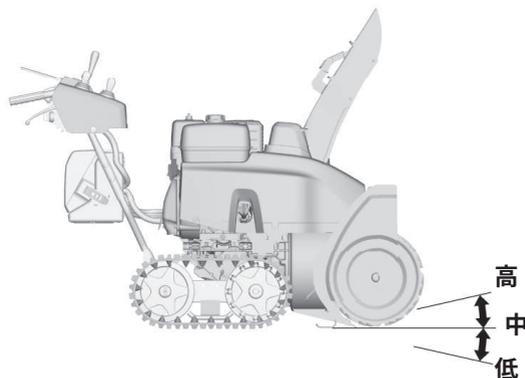
[Jタイプ]

1. オーガハウジング調節レバーを押すことで調節できます。オーガハウジングの高低は無段階に調節できます。
上げるとき・・・オーガハウジング調節レバーを押しながらハンドルを機体を下方向に引き下げます。
下げるとき・・・オーガハウジング調節レバーを押しながら機体を上方向に引き上げます。
2. オーガハウジング調節レバーを離すとその位置でオーガハウジングが固定されます。

オーガハウジング
調節レバー



[全タイプ]



高：段切除雪、後進および移動の場合に使用してください。

中：一般除雪（通常はこの位置で除雪してください。）

低：固雪除雪（固い雪でオーガが浮き上がりぎみのとき使用してください。）

⚠ 注意

“低”の位置は、固くなった雪の除雪の場合のみ使用してください。
柔らかい状態の雪や不整地での使用は路面を傷付けたり、石飛びのおそれがあり危険です。また本機が破損したり、オーガがいちじるしく消耗・損傷する場合があります。

2. 始動

始動については「エンジンのかけかた」（47～49頁）を参照してください。

3. 運転操作

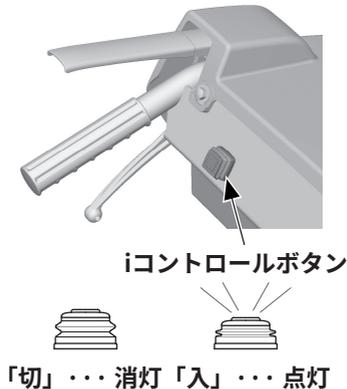
- － 1. 前後進速度調節レバーが“N”（中立）の位置にあることを確認します。
- － 2. iコントロールを「入」または「切」にします。

iコントロールの「入」、「切」により操作および作業内容が異なります。目的にあった位置を選択してください。（24頁参照）

iコントロールボタン選択の目安

- ・ iコントロール「入」
 1. 走行速度を自動制御してほしい。
 2. 投雪距離を安定させたい。
 3. 作業を早く終わらせたい。
- ・ iコントロール「切」

全ての操作を自分の好きなように行いたい。



運転操作のしかた

3a. iコントロール「入」での除雪作業

iコントロールを「入」にするとエンジン回転／投雪距離を安定させることができます。雪を捨てる場所までの距離に合わせてエンジン回転数／投雪距離を調節することが、作業を早く終わらせるうえで重要です。

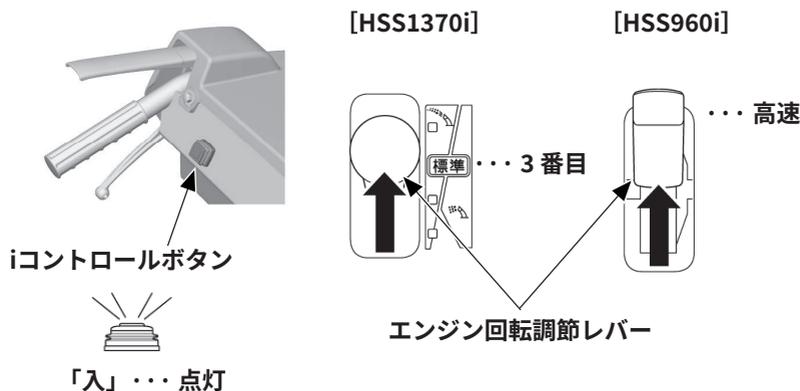
- オーガが回転して前進していないとエンジン回転調節レバーは動きません。このときエンジン回転数は自動的に設定されます。（21頁参照）

1. [HSS1370i]

エンジン回転調節レバーを下から3番目の位置にあわせます。

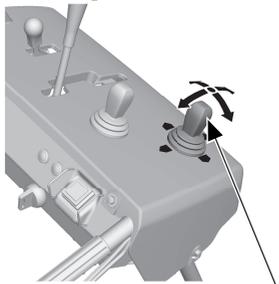
[HSS960i]

エンジン回転調節レバーを“高速”の位置にします。



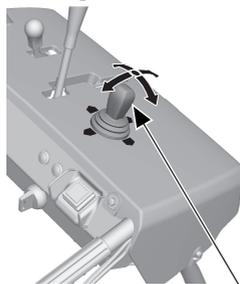
- ### 2. 投雪方向調節スイッチを操作し、投雪角度と投雪方向を調節します。（29頁参照）

[JXタイプ]



投雪方向調節スイッチ

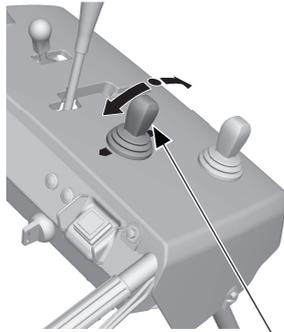
[Jタイプ]



投雪方向調節スイッチ

3. オーガハウジング調節スイッチ(JXタイプ)またはオーガハウジング調節レバー(Jタイプ)を操作して、オーガが路面と平行になるように調節します。(30頁参照)

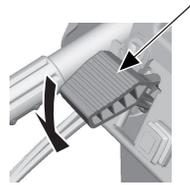
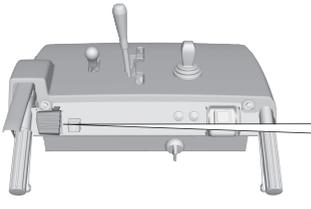
[JXタイプ]



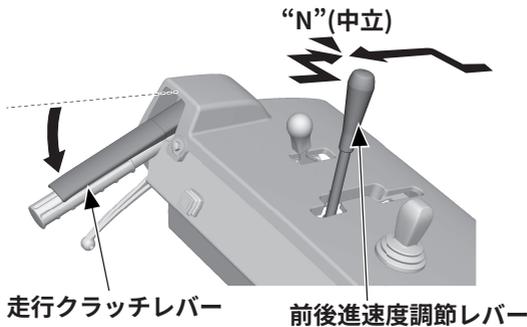
オーガハウジング調節スイッチ

オーガハウジング調節レバー

[Jタイプ]



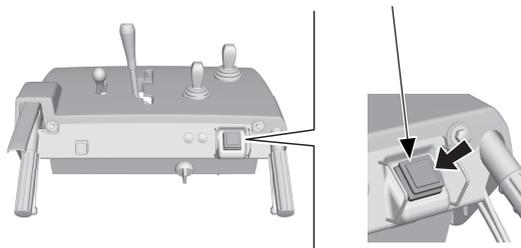
4. 前後進速度調節レバーが“N”(中立)の位置にあることを確認し、走行クラッチレバーを握ります。



運転操作のしかた

5. 除雪クラッチボタンを押してオーガとブロワを回転させます。(27頁参照)

除雪クラッチボタン
(表示灯内蔵)



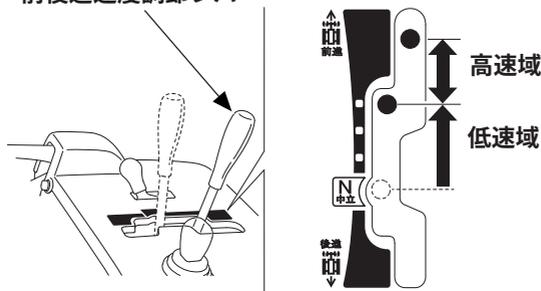
警告

走行クラッチレバーおよび除雪クラッチボタンを操作するとオーガが回転します。レバーおよびボタンを操作するときには周囲の安全を十分に確認してください。

6. 前後進速度調節レバーをゆっくりと前進側の低速域いっぱいまで操作し、除雪作業をします。

- オーガが路面にあたったり、本機が傾いてきたときは、オーガハウジング調節スイッチ(JXタイプ)または、オーガハウジング調節レバー(Jタイプ)を操作してオーガハウジングの位置を調節します。
- 積雪が少ないときや、雪質が軽いときには、前後進速度調節レバーを高速域へ操作します。走行速度が安定しない場合には、前後進速度調節バーを微調節して走行速度を安定させます。

前後進速度調節レバー



7. [HSS1370i]

除雪作業が安定したら、エンジン回転調節レバーを操作して必要な投雪距離に調節します。

- 投雪距離を長くすると走行速度が遅くなり、短くすると速くなります。必要に応じて、エンジン回転調節レバーを操作して投雪距離を調節します。



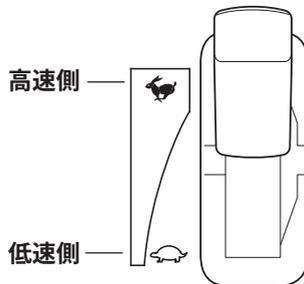
エンジン回転調節レバー		エンジン回転数	投雪距離	除雪量*
高速側 ↓ 低速側	4番目	速い ↑ ↓ 遅い	長い ↑ ↓ 短い	少ない ↓ 多い ↓ 少ない
	3番目「標準」			
	2番目			
	1番目			

* 除雪量は「エンジン回転」でなく「エンジントルク（エンジンの力強さ）」によります。「エンジントルク」は「エンジン回転」と異なり「2番目」が最大です。

[HSS960i]

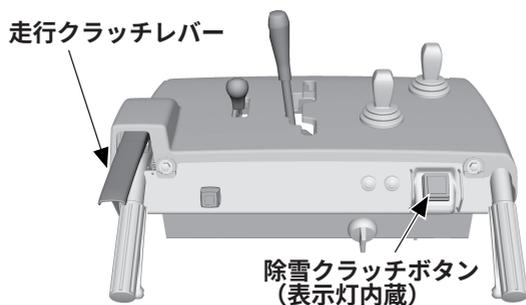
除雪作業が安定したら、エンジン回転調節レバーを操作して、必要な投雪距離に調節します。

- 投雪距離を長くすると走行速度が遅くなり、短くすると速くなります。必要に応じて、エンジン回転調節レバーを操作して投雪距離を調節します。



運転操作のしかた

8. 走行クラッチレバーから手を放すと除雪クラッチボタンの表示灯（緑）が消灯して、オーガとブロワの回転が停止し、同時に走行も停止します。
- 移動のときは、除雪クラッチを「切」にしてください。



3b. iコントロール「切」での除雪作業

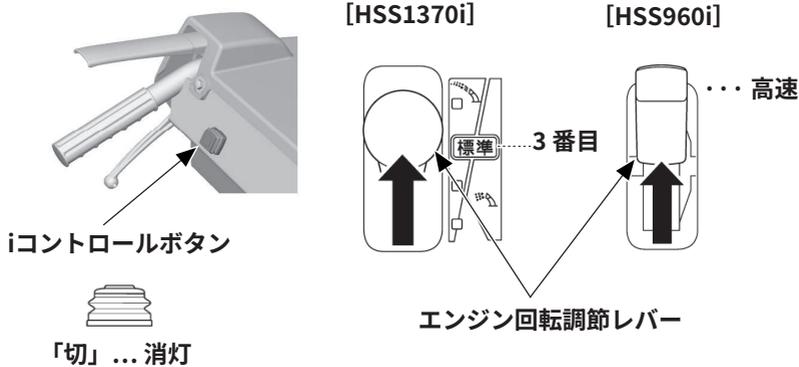
iコントロール「切」操作時、自動制御は行われません。エンジン回転や走行速度などを自由に調節することができます。

1. [HSS1370i]

エンジン回転調節レバーを下から3番目の位置にあわせませす。

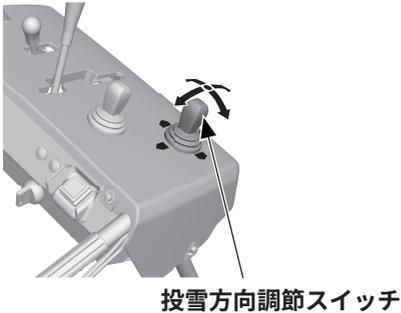
[HSS960i]

エンジン回転調節レバーを“高速”の位置にします。

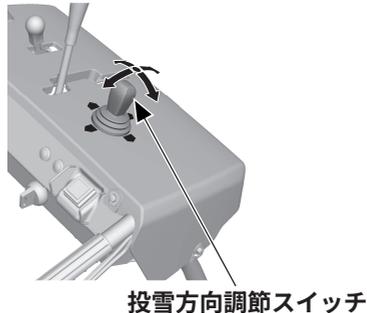


2. 投雪方向調節スイッチを操作し、投雪角度と投雪方向を調節します。(29頁参照)

[JXタイプ]



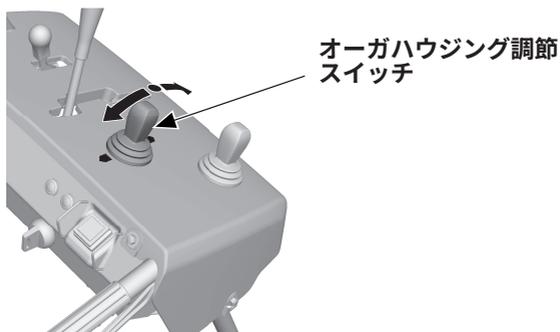
[Jタイプ]



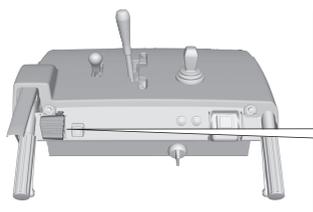
運転操作のしかた

3. オーガハウジング調節スイッチ(JXタイプ)または、オーガハウジング調節レバー(Jタイプ)を操作して、オーガが路面と平行になるように調節します。(30頁参照)

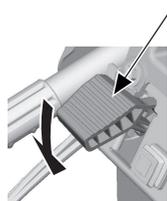
[JXタイプ]



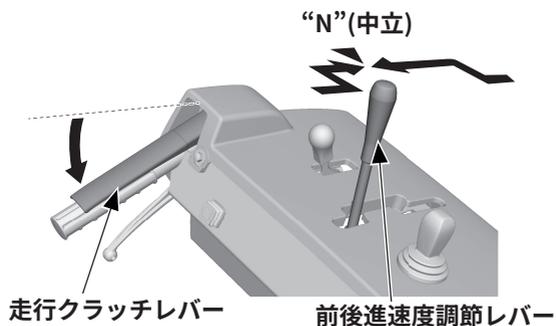
[Jタイプ]



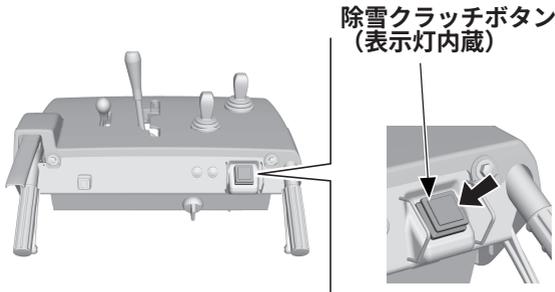
オーガハウジング調節レバー



4. 前後進速度調節レバーが“N”（中立）の位置にあることを確認し、走行クラッチレバーを握ります。



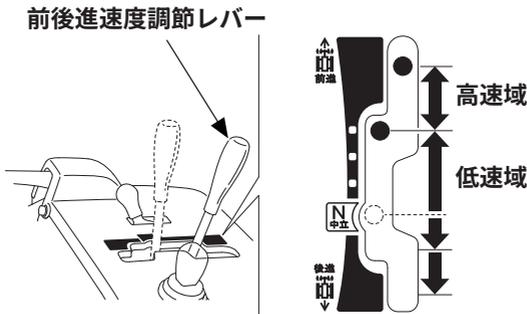
5. 除雪クラッチボタンを押してオーガとブロワを回転させます。（27頁参照）



⚠ 警告

走行クラッチレバーおよび除雪クラッチボタンを操作するとオーガが回転します。レバーおよびボタンを操作するときには周囲の安全を十分に確認してください。

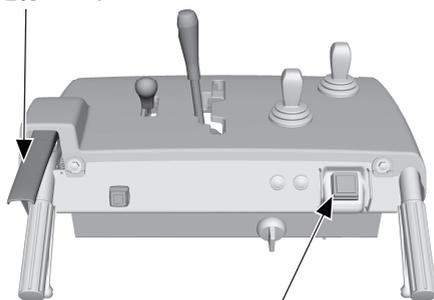
6. 雪質、積雪量に合わせて、前後進速度調節レバーの低速域で位置を選び速度を設定し除雪作業をします。
- 除雪作業中も雪質、積雪量の変化に合わせて前後進速度調節レバーを操作して走行速度を調節してください。
 - オーガが路面にあたったり、本機が傾いてきたときは、オーガハウジング調節スイッチ(JXタイプ)または、オーガハウジング調節レバー(Jタイプ)を操作してオーガハウジングの位置を調節します。



運転操作のしかた

7. 走行クラッチレバーから手を放すと除雪クラッチボタンの表示灯（緑）が消灯して、オーガとブロワの回転が停止し、同時に走行も停止します。
- 移動のときは、除雪クラッチを「切」にしてください。

走行クラッチレバー



除雪クラッチボタン（表示灯内蔵）

4. 旋回のしかた

走行中に旋回レバーを握ることで本機の進行方向を変えることができます。旋回は、前後進速度調節レバーの位置と旋回レバーの握り込み量により、通常の旋回と、超信地旋回（その場で旋回）ができます。

左旋回するとき……………左旋回レバーを握ります。

右旋回するとき……………右旋回レバーを握ります。

● 通常の旋回

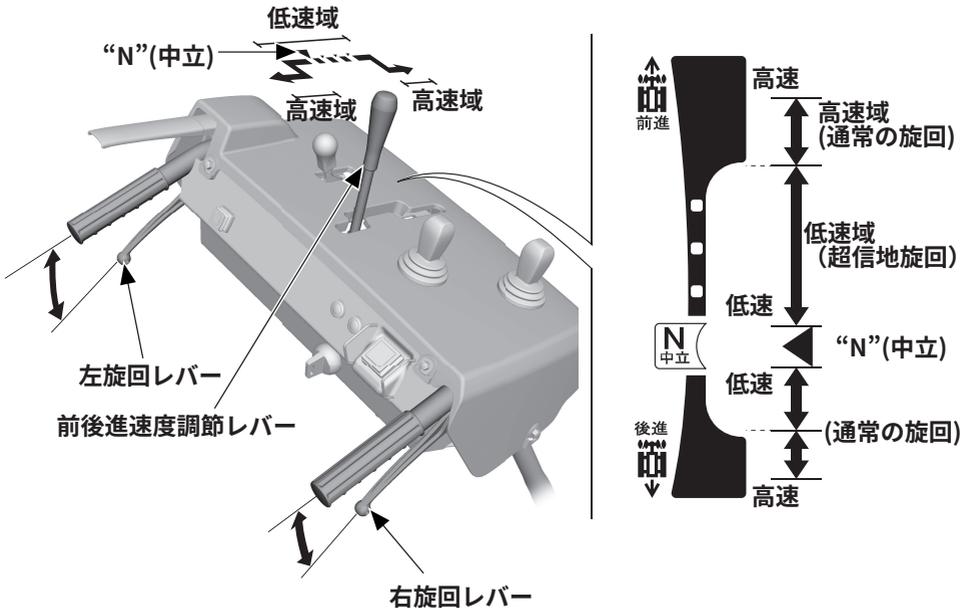
大きく旋回したい場合……………旋回レバーの握り込み量を小さくします。

小さく旋回したい場合……………旋回レバーの握り込み量を大きくします。

● 超信地旋回（前進の低速域で可能）

前進側低速域で走行中に、旋回したい方の旋回レバーを完全に握りこむと超信地旋回（その場で旋回）できます。

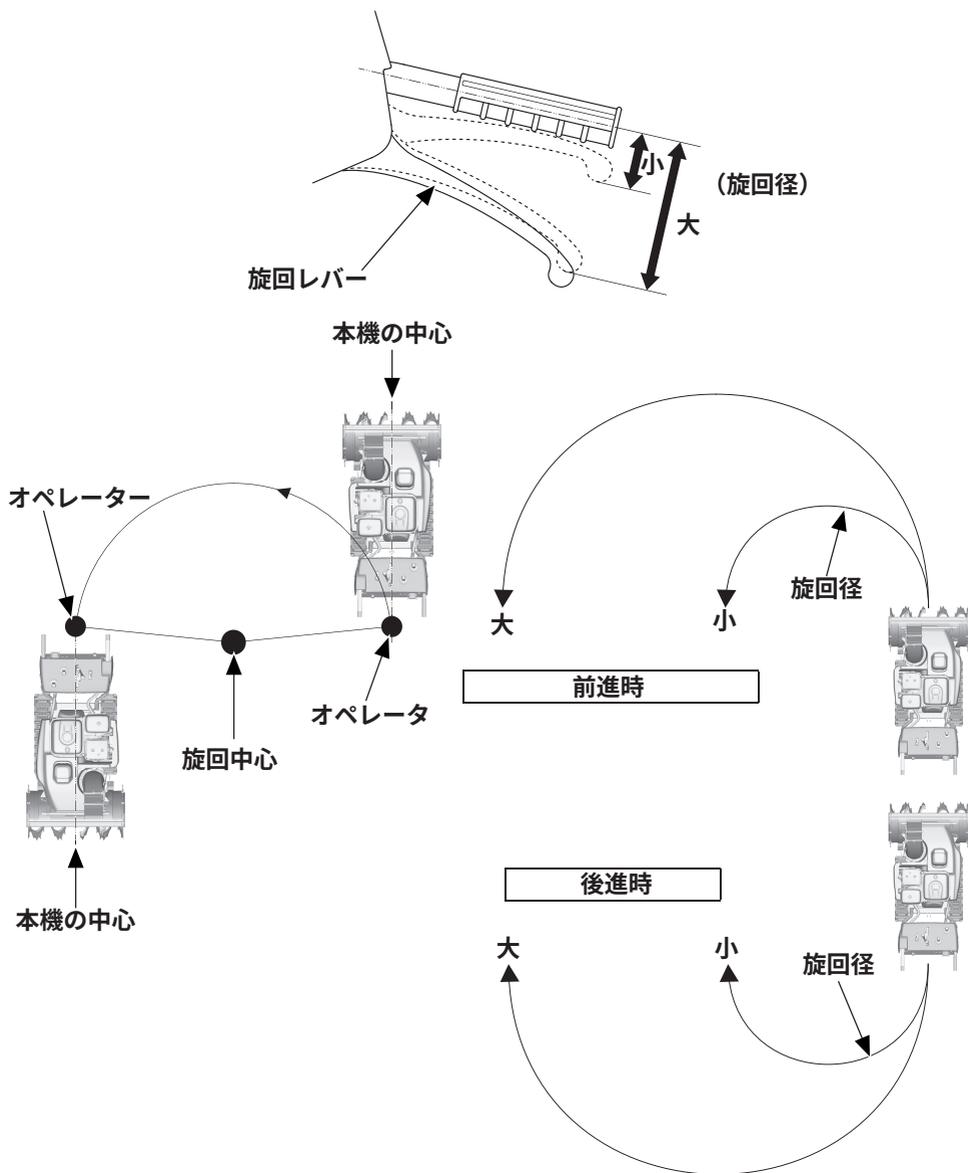
本機の出し入れ、狭い場所などでの方向転換や方向修正が容易にできます。



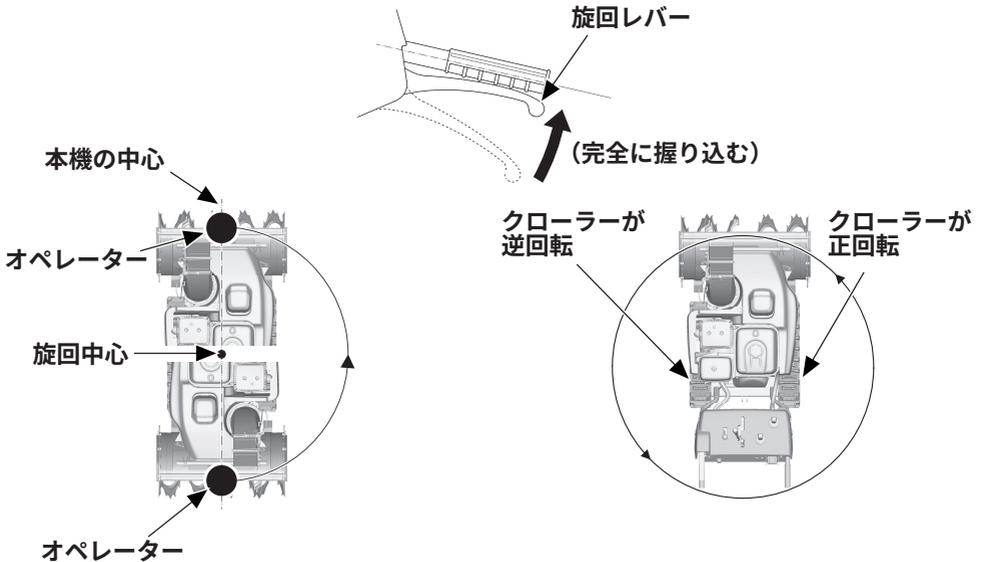
運転操作のしかた

例：左旋回するとき（右旋回のときは図の対称側方向になります。）

- 通常の旋回（前進低速域で旋回レバーの握り込み量が途中までのとき、前進高速域のとき、後進のとき）



- 超信地旋回（前進低速域で旋回レバーを完全に握り込んだとき）
旋回する側のクローラーが逆回転して、超信地旋回（その場で旋回）します。



5. 走行モーターの保護機能について

- 本機はモーターで走行する機構になっています。本機の使用条件によってはモーターに大きな負荷が加わり、保護回路の働きで制御表示灯（橙）が3回点滅し、走行が停止する場合があります。
この場合は走行クラッチレバーを放し、除雪作業を中断します。そのままエンジンを止めずに、制御表示灯（橙）が3回点滅が消えるまで待ってください。制御表示灯（橙）が消灯すれば、正常な状態に戻りましたので、作業を再開してください。
モーターへの負荷が多過ぎると、保護機能が頻繁にはたらく場合があります。その場合は、負荷を少なくするなど調節しながら除雪してください。
エンジンが再始動できなかつたり、エンジンを始動しても制御表示灯（橙）が点灯、点滅する場合は故障の可能性がありますので、クローラーのホイールピンを抜くなどして、本機を安全な場所に移動して、故障診断表（99頁参照）にて故障内容を確認し、必要ならばお買いあげ販売店またはサービス指定店で点検、修理を受けてください。ピンの抜き方は108頁を参照してください。

運転操作のしかた

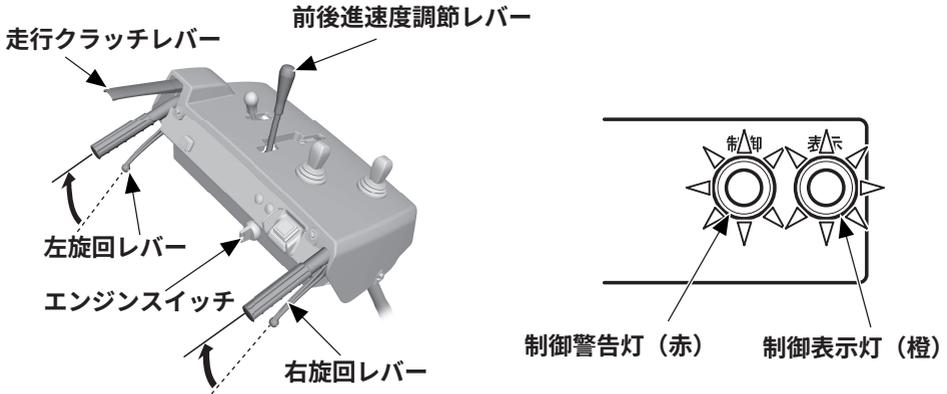
6. バッテリー走行モード

バッテリー走行モードは、エンジンを始動せずに走行用モーターで移動するモードです。

取扱いのポイント

- バッテリー走行モードは、バッテリーを消費するため、エンジンを始動できないときの移動時にのみ使用してください。
 - 通常満充電状態で通算3分以内を目安としてください。それ以上もしくは頻繁に操作するとバッテリーがあがり、エンジンの始動および走行ができなくなります。
 - バッテリー走行後は、必ずエンジンスイッチを“停止”の位置にしてください。エンジンスイッチを“運転”のまま放置するとバッテリーが放電し、思わぬ事故を招くことがあります。
 - 必要によりバッテリーを充電してください。（93頁参照）
 - バッテリー走行モードを起動するときは、必ず前後進速度調節レバーを“N”（中立）の位置にしてください。
 - 次の条件では走行しない場合があります。
 - ・ ホイールピンが折損または外れている場合
 - ・ バッテリーがあがっている場合
 - ・ 走行モーターなどに不具合がある場合
- 必要に応じてホイールピンを取外して移動してください。（108頁参照）

- － 1. エンジンスイッチを”停止”の位置にします。
- － 2. 前後進速度調節レバーを”N”（中立）の位置にします。
- － 3. 走行クラッチレバーを放した状態で、エンジンスイッチを”運転”の位置にします。
- － 4. 左旋回レバーと右旋回レバーの両方を握ります。
- － 5. 約3秒間握り続け、制御警告灯（赤）と制御表示灯（橙）が点滅したら、左旋回レバーと右旋回レバーを放します。
- － 6. 点滅が始まってから5秒以内に走行クラッチレバーを握ります。



- ー 7. 前後進速度調節レバーを操作し、適切な速度で移動します。
- 点滅が始まってから5秒以内に走行クラッチレバーを操作し、走行しないと制御警告灯（赤）と制御表示灯（橙）が点滅から点灯に変わり、バッテリー走行モードは終了します。
 - バッテリー走行モード中、走行クラッチレバーを放すと、バッテリー走行モードは終了します。
 - 再度、バッテリー走行モードを使用する場合は、一度エンジンスイッチを”停止”の位置にしてから、上記の手順を行ってください。
- ー 8. 走行後はエンジンスイッチを”停止”の位置にします。

運転操作のしかた

7. シャーボルトガード(Jタイプ)

以下のような状況でエンジンが停止し、制御表示灯（橙）と除雪クラッチボタン表示灯（緑）が点滅した場合、必ず次の手順に従ってください。

- 回転しているオーガ部に石などが噛んだ場合
- 縁石などに衝突した場合
- 固くなった雪に無理に食い込ませたりした場合

警告

- オーガ部に噛みこんだ異物などを除去するときは、エンジンスイッチを“停止”の位置にし、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜いてください。
- 各回転部が完全に止まっている状態で異物を取除いてください。エンジンや各回転部が回っているときは、絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

1. エンジンスイッチを停止位置にします。
2. エンジンスイッチキーを抜きます。
3. 各回転部が完全に止まっていることを確認します。
4. 必要によりオーガ部の雪を除去し、噛み込んだ石などの異物を取除きます。異物がオーガハウジング等に食い込んで除去しにくい場合は、ブロワを逆回転させ、オーガを回すことにより除去しやすくなります。
5. エンジンスイッチキーを入れます。
6. エンジンを開始します。
7. 除雪クラッチレバーを握り、オーガ部を回転させて、制御表示灯（橙）と除雪クラッチボタン表示灯（緑）が点滅していないことを確認します。
8. 走行クラッチレバーを握り通常の除雪作業を行います。

以下のような場合はシステムに異常が発生しています。

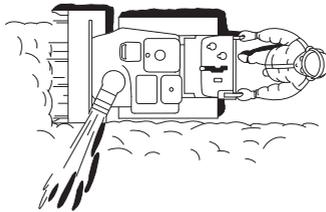
- 除雪作業中に異物の噛み込み等によるエンジン停止が起きていないにもかかわらず、表示灯が点滅する場合
 - エンジン運転後、オーガを回した後に制御警告灯(赤)が点灯し、制御表示灯(橙)が15回、除雪クラッチボタン表示灯(緑)が連続して点滅する場合
- 使用中に異常が発生したら、エンジンスイッチを“停止”の位置にし、キーを抜いて、直ちにお買あげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください。

8. 除雪のしかた

除雪作業は、必要な投雪距離に見合ったエンジン回転を選択し、エンジンの回転を落とさず行うことが重要です。前後進速度調節レバーを低速の位置にしてもエンジン回転が落ちる場合は次の要領を参考にして、除雪作業を行ってください。

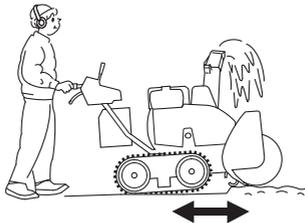
● 除雪幅を狭くする方法

深い雪や、重くなった雪を除雪する場合は、遅い速度で除雪してください。またこのような場合、オーガに掛かる雪幅を狭くし、オーガハウジングに入る雪の量を少なくして除雪を行ってください。



● 前後進除雪の方法

固くなった雪などでオーガが乗り上げるような場合には、遅い速度で除雪してください。1回で除雪しきれない場合には、“前、後進”をくり返して除雪してください。



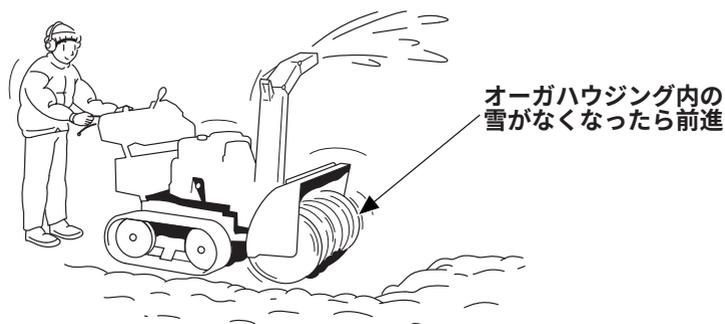
iコントロールが「入」の場合、は、後進時にオーガハウジングが自動的に上昇します。(JXタイプ)

運転操作のしかた

● 断続除雪の方法

深い雪や、重い雪の除雪作業時にエンジン回転が低下する場合には、断続的に除雪を行ってください。

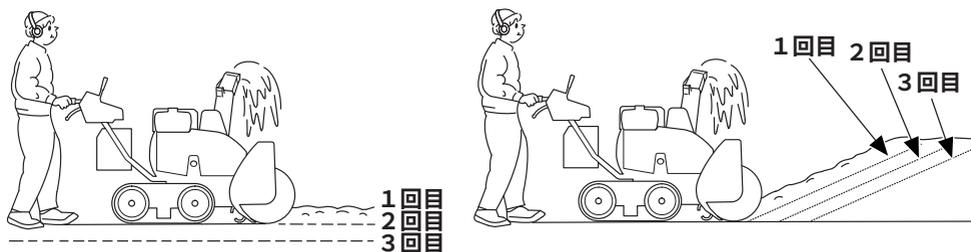
1. エンジン回転が回復するまで前後進速度調節レバーを“N”（中立）の位置に操作してください。（この時除雪クラッチボタンの表示灯（緑）を点灯させ、オーガが回転したままにしておきます。）
2. オーガハウジング内の雪がなくなり、エンジン回転が回復したら前後進速度調節レバーを前進側低速域に操作してください。
3. 再びエンジン回転が低下する場合には、1.～2.を繰り返して行います。



● 段切除雪の方法

積雪量が多く、オーガよりも雪が多い場合などには段階的に除雪を行ってください。

1. のぼるときは、
 - オーガハウジング調節スイッチ(JXタイプ)または、オーガハウジング調節レバー(Jタイプ)を操作しオーガを少し上げます。
2. 食い込ませるときは、
 - オーガハウジング調節スイッチ(JXタイプ)または、オーガハウジング調節レバー(Jタイプ)を操作し、オーガを少し下げます。
 - 必要に応じて、ソリの位置を調節します。（42頁参照）

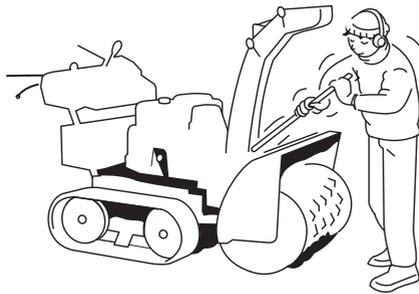
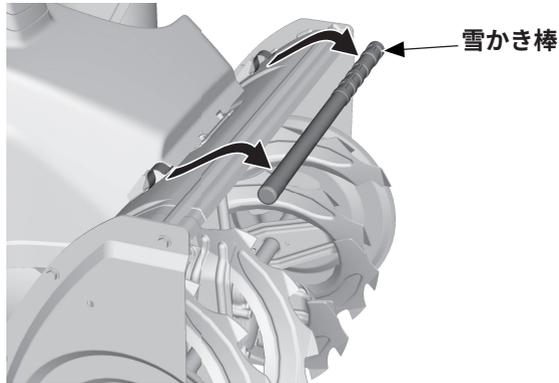


- 投雪口に詰まった雪の除去

⚠ 警告

- オーガハウジング内および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜き、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。
- エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

1. 除雪作業中、投雪口に雪が詰まったときは、雪かき棒で除去します。



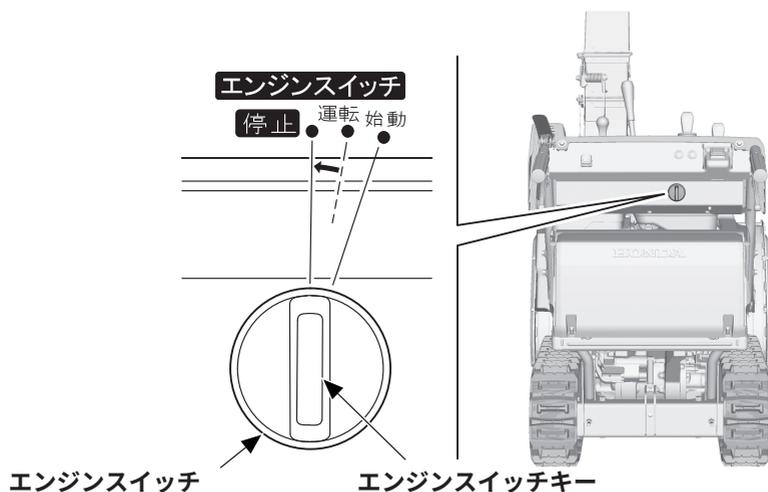
2. 雪かき棒は使用後、必ず元の位置に戻してください。

除雪機のとめかた

⚠ 警告

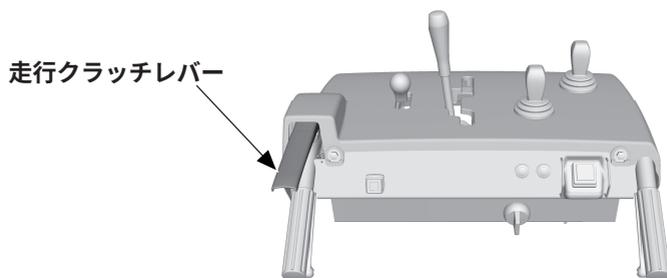
除雪機から離れるときは、平坦な場所に駐車しエンジンを停止してください。
除雪機が動きだし、ケガや事故の原因となるおそれがあります。

- 緊急にエンジンを停止する場合
エンジンスイッチを“停止”の位置にし、エンジンスイッチキーを抜きます。



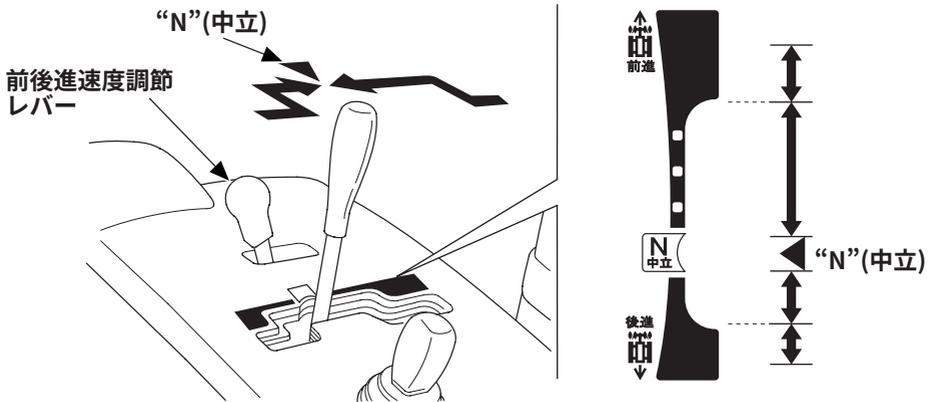
エンジンスイッチキーを使って本機を緊急停止させた場合は、再び始動する前に前後進速度調節レバーを“N”（中立）の位置にしてください。

- 通常停止の場合
 1. 走行クラッチレバーから手を放します。
走行が停止し、数秒後にオーガの回転が停止します。



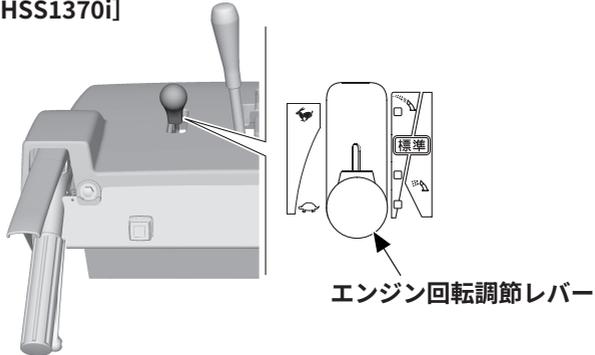
除雪機のとめかた

2. 前後進速度調節レバーを“N”（中立）の位置にします。

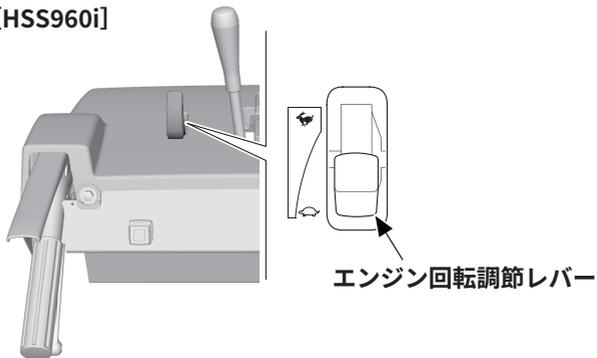


3. エンジン回転調節レバーを“低速”にします。

[HSS1370i]



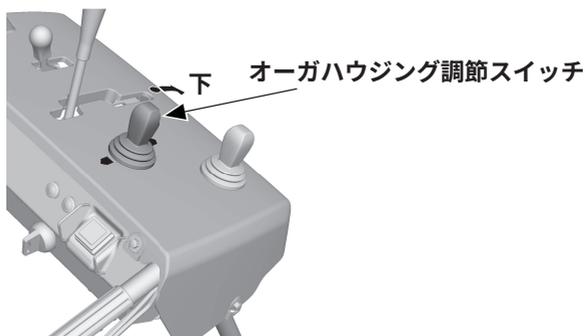
[HSS960i]



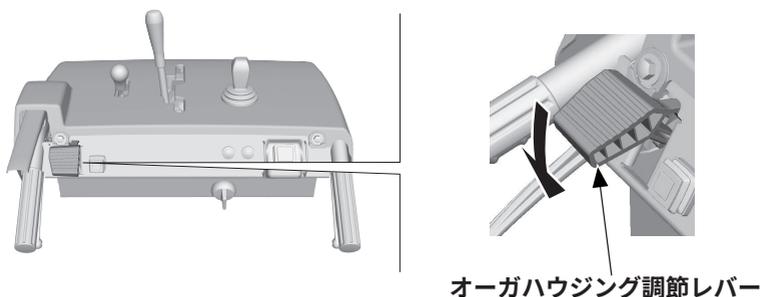
除雪機のとめかた

4. オーガハウジング調節スイッチ(JXタイプ)または、オーガハウジング調節レバー(Jタイプ)を操作して、オーガを水平にし、完全に路面へ接地させます。

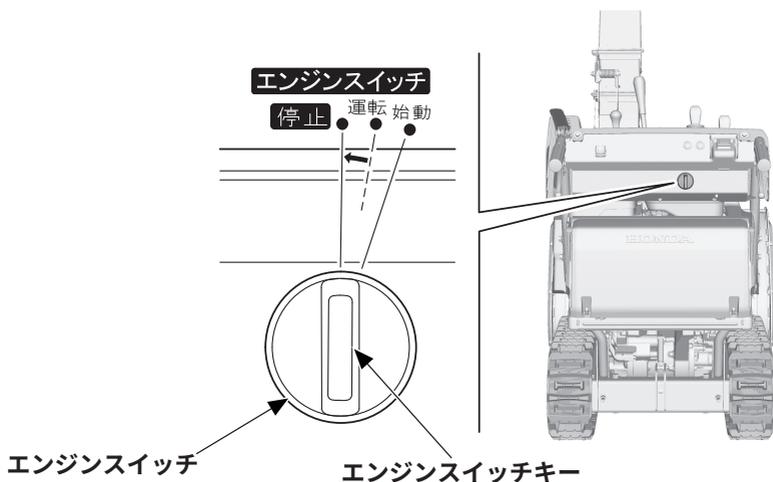
[JXタイプ]



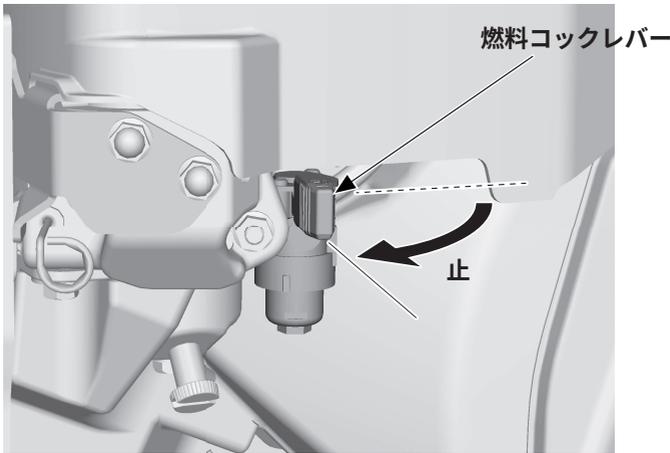
[Jタイプ]



5. エンジンスイッチを“停止”の位置にし、エンジンスイッチキーを抜きます。



6. 燃料コックレバーを“止”の位置にします。



取扱いのポイント

- 作業後は、各部の雪を削除して格納してください。雪が付いたまま放置すると凍結し、次の使用に支障があるばかりでなく故障の原因にもなります。
- 本機を洗車する場合は、直接電装部品に被水しないように行ってください。被水すると、浸水し故障の原因となります。

定期点検を行いましょ

お買いあげいただきました除雪機を安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょ。

定期点検整備項目

点検時期 (1)	作業前点検	シーズン毎		1か月目または初回20時間	100時間運転毎	300時間運転毎	4年毎	参照頁
		除雪時期初め	除雪時期終わり					
エンジンオイル	点検、補給	○						36
	交換		○(5)	○(5)	○(5)			78
バッテリー液	点検、補給	○						37
	比重点検		○(2)(5)					—
バッテリー	補充電		○(2)	○(2)				—
			または6カ月毎					—
走行ミッションオイル	点検		○(2)					—
オーガミッションオイル	点検、補給		○(2)					—
点火プラグ	点検、調整		○(5)					80
	交換					○	○	80
ソリ、スクレーパー	点検、調整	○	○(5)					42
クローラー	点検、調整		○(4)(5)	○(4)(5)				82
オーガ/プロワロックボルト	点検	○						41
各部締付け点検	点検	○						46
燃料ろ過カップ	清掃			○				91
燃料タンク、キャブレターの燃料	抜き			○				90
格納時各部防錆、給油	塗布、給油			○				94
走行クラッチレバー	点検	○						45
除雪クラッチボタン	点検	○						45
シューターガイドケーブル	点検、調整		○(2)(5)					—
スロットル、チョークケーブル (HS960iのみ)	点検、調整		○(2)(5)					—
オーガハウジング調節スイッチ(JXタイプ)/オーガハウジング調節レバー(Jタイプ)	動作点検		○(2)					—
オーガピン	交換		○(2)					—
プロワピン	交換		○(2)					—
オーガベルト	点検、調整		○(2)(4)(5)	○(2)(4)(5)				—
ACGベルト	点検、調整		○(2)(4)(5)	○(2)(4)(5)				—
各種スイッチの作動	点検	○						46
アイドル回転	点検、調整		○(2)			○(2)		—
吸入、排気弁すき間	点検、調整		○(2)			○(2)		—
燃焼室	清掃		1,000時間運転毎(2)(3)					—
燃料タンク、ろ過網	清掃				○(2)			—
燃料チューブ	点検		2年毎(必要に応じて交換)(2)					—

- 点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
- 適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス指定店で実施してください。
- 表示時間を経過後すみやかに実施してください。
- 亀裂、異常摩耗が入っていないことを確認し、異常がある場合は交換してください。
- 消耗部品であり、使用状況や環境によって点検、交換時期が変わります。異常や損傷がある場合は早めに交換してください。

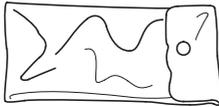
点検・整備を行う前に作業内容を確認してください。ご自身で作業できない場合、お買いあげ販売店またはサービス指定店にご相談ください。

⚠ 警告

点検・整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜いて行ってください。

同梱工具と同梱部品

工具は点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。
() は、個数を表示しています。



工具袋



プライヤー



10 × 12 mm アイレンチ



ブロウ／オーガロックボルト(6)



10 × 12 mm スパナ



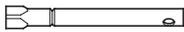
6 mm ブロウ／オーガロックナット(6)



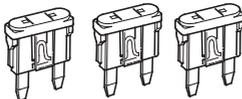
レンチハンドル



ホイールピン固定用割ピン(2)



プラグレンチ



7.5 A 15 A 30 A

予備ヒューズ



予備ヒューズカバー(2)

点検・整備のしかた

エンジンオイルの交換

⚠ 警告

- エンジン停止直後はエンジン本体やオイルの温度が高くなっています。十分冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
- 補給、交換時にこぼれたオイルは布きれなどでふき取ってください。エンジン高温部、マフラー等に付着すると火災の原因となります。

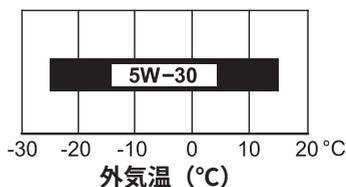
エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《推奨オイル》

Honda 純正汎用寒冷地オイル (SAE 5W-30) またはAPI 分類SE 級以上のSAE5W-30 エンジンオイルをご使用ください。

《オイル容量》 1.1 L

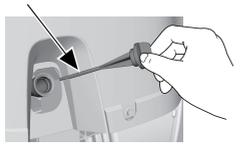
エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



《交換のしかた》

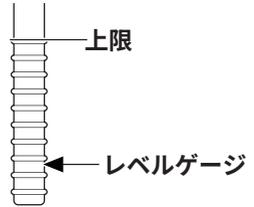
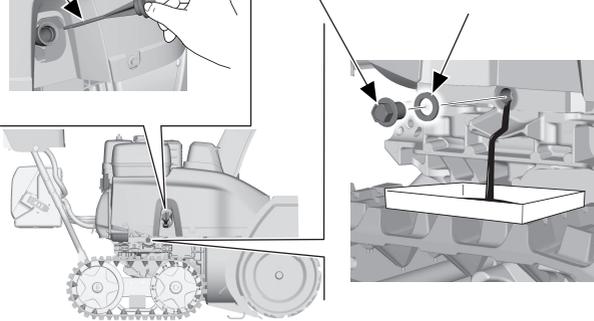
1. 本機を平坦な場所で水平な状態にします。
2. オイル受けを用意して排油ボルトの下にセットします。
3. エンジンオイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
4. オイルが抜けたら新しいシーリングワッシャーを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
5. 新しいエンジンオイルをレベルゲージの上限まで注入します。
6. 注入後、エンジンオイル給油キャップを確実に締付けます。

オイル給油キャップ



エンジンオイル
排油ボルト

シーリングワッシャー（交換）



- 締付けトルク：22.5 N・m (2.25 kgf・m)

取扱いのポイント

- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。
- 外したシーリングワッシャーを再使用するとオイルがにじみ出ることがあります。新しいシーリングワッシャーを使用してください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルがにじみでることがあります。

点検・整備のしかた

点火プラグの点検、調整、交換

⚠ 注意

エンジン停止直後のマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適當ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

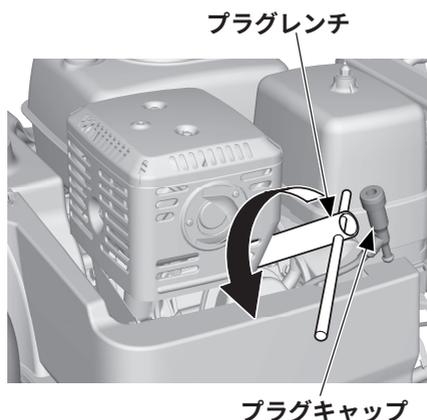
《指定点火プラグ》

BPR5ES (NGK)

W16EPR-U (DENSO)

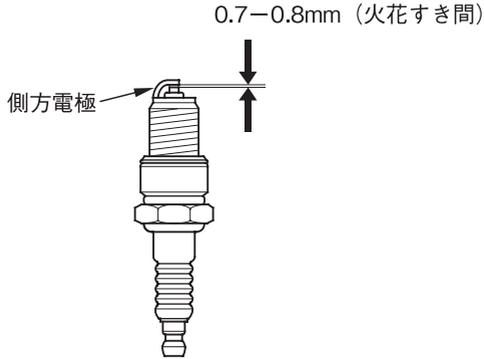
《清掃のしかた》

1. 点火プラグキャップを外してください。
2. プラグレンチ（同梱工具）で点火プラグを取外します。
3. 点火プラグの清掃はプラグクリーナーを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはサービス指定店をご利用ください
プラグクリーナーがないときは、針金かワイヤーブラシで汚れを落としてください。



《調整のしかた》

- 側方電極を曲げて火花すき間を下記寸法に調整します。
火花すき間：0.7 - 0.8 mm
- 締付けトルク：18 N・m (1.8 kgf・m)



取扱いのポイント

- 故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。
点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽く一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
- 点検、調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

点検・整備のしかた

クローラーの張り点検、調整

クローラーの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

《点検のしかた》

[HSS1370i]

クローラー中央部を（約100 N（10 kgf））押したときたるみが適正寸法になっていることを確認します。

適正寸法：16 – 18 mm

[HSS960i]

クローラー中央部を（約49 N（5 kgf））押したときたるみが適正寸法になっていることを確認します。

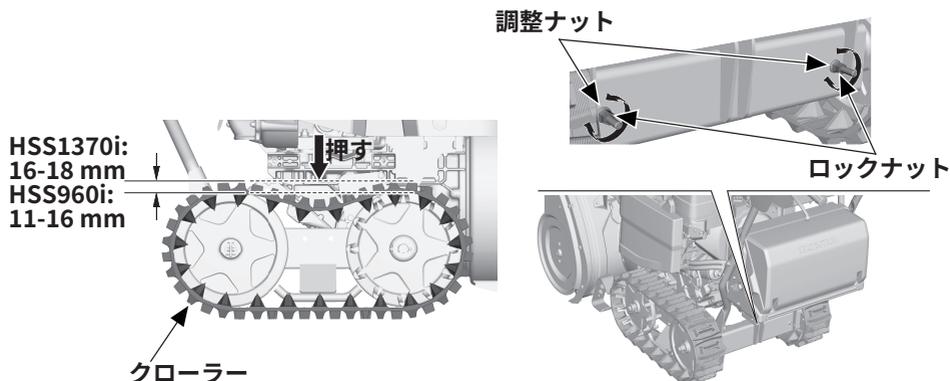
適正寸法：11 – 16 mm

《調整のしかた》

1. ロックナットを緩め、調整ナットを回して調整してください。
右に回すとクローラーは張ります。
左に回すとクローラーはゆるみます。
2. たるみが適正寸法になるように調整してください。
3. 調整後は確実にロックナットを締付けてください。
4. 左右同じ方法で点検し、均等に調整してください。

取扱いのポイント

クローラーが凍結しているときは正しい張り調整ができません。
必ず凍結を取除いてから調整してください。



除雪部の点検

⚠ 警告

保護手袋を着用してください。ケガをするおそれがあります。

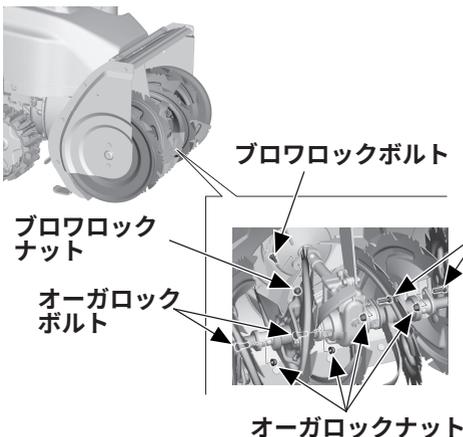
オーガ、オーガハウジング、ブロウに損傷のないことを確認します。
 オーガ／ブロウのロックボルトのゆるみ、折れがないことを確認します。
 もし折れている場合は下記の手順で同梱されているロックボルトと交換してください。

- オーガ／ブロウロックボルト、ナットはスペア部品が同梱されています。
 使用した場合は、万が一に備えて補充してください。
- 新しいロックボルト、ナットはお買いあげ販売店またはサービス指定店にご注文ください。

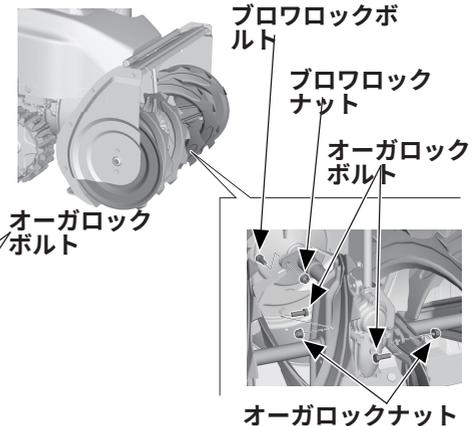
ロックボルトの交換方法

1. 本機を平坦な場所に水平に止めてください。
2. 除雪クラッチを「切」にし、走行クラッチレバーを放してください。
3. 前後進速度調節レバーを“N”（中立）にしてください。
4. オーガハウジング調節スイッチ(JXタイプ)/オーガハウジング調節レバー(Jタイプ)でオーガを水平にし、着地させてください。
5. エンジンスイッチを“停止”にして、キーを抜き、各回転部が停止していることを確認してください。
6. オーガ、ブロウの凍結または異物（木片、缶、ホース、線材、ナワなど）を取除きます。
7. 除雪部（オーガ、オーガハウジング、ブロウ）に損傷がないことを点検してください。
8. 折れたボルトを取除き、新しいボルトと交換し、確実に締付けてください。

[JXタイプ]



[Jタイプ]



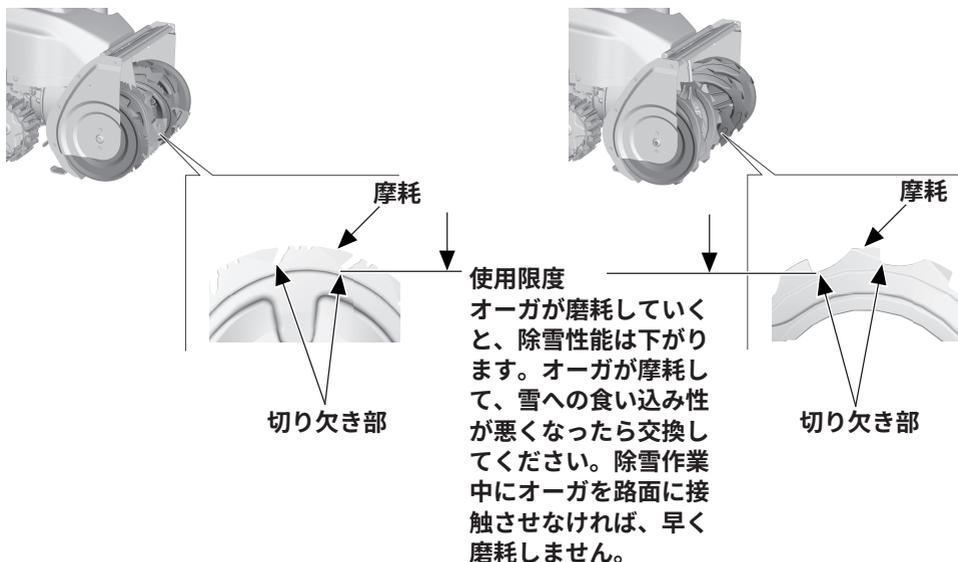
点検・整備のしかた

オーガ、ブロワの交換

- オーガは路面や石との接触により磨耗します。磨耗したオーガでは除雪性能が悪化しますので、新しい部品に交換してください。

[JXタイプ]

[Jタイプ]



- オーガ、ブロワが変形した場合には、外力を加えて修正しないでください。割れ目が生じ、思わぬ事故の原因となることがあります。
- 変形したオーガ、ブロワが回転中に干渉する場合や、除雪性能の低下や投雪距離が短くなったときは、新しい部品に交換してください。
- オーガ、ブロワの交換は、お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください。

ヒューズについて

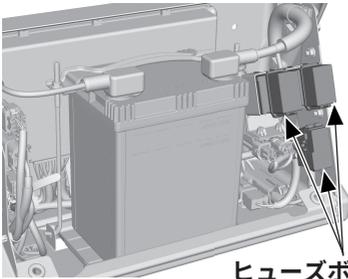
ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

取扱いのポイント

指定ヒューズ以外の物、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線などを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

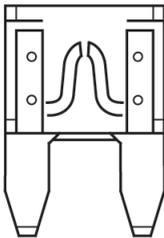
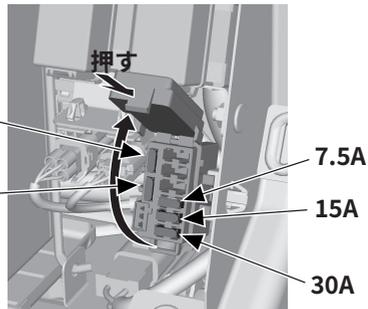
《交換のしかた》

1. バッテリーカバーを取外します。(38頁参照)
 2. 切れたヒューズを同じ容量のヒューズと交換してください。
- * 指定ヒューズは、お買いあげ販売店またはサービス指定店にご注文ください。



ヒューズボックス

7.5A
(予備ヒューズ)
15A
(予備ヒューズ)

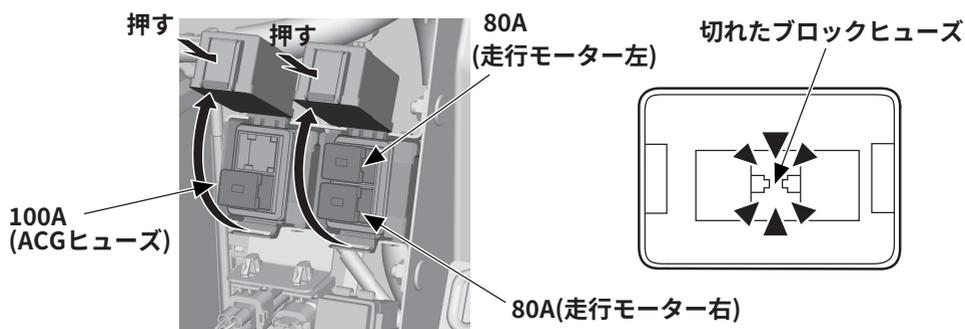


切れたヒューズ

- 7.5 A、15 A、30 Aの予備ヒューズが工具袋に同梱されています。

点検・整備のしかた

3. ブロックヒューズ（ACG、走行モーター）の交換は、お買いあげ販売店またはサービス指定店で修理を受けてください。



各々が作動しないときは

- ヒューズに異常がないことを確認してください。
- ヒューズに異常がない場合は、お買いあげ販売店またはサービス指定店で、点検・修理を受けてください。

各部の作動点検

年1 回除雪時期の初めに、次の点検を行ってください。

- エンジンの始動、停止
- レバー類の作動
- スイッチ類の作動
- その他の可動部分の作動

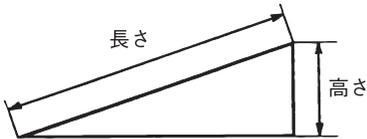
アユミ板を使つてのトラックへの積み降ろし

⚠ 警告

- 車への積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。
- アユミ板の上を移動途中に、旋回レバーによる操作を絶対に行わないでください。アユミ板から本機が落ちる場合があります。

《積み降ろしをする前に》

1. 積み降ろしは平坦な場所で行ってください。
2. 使用するアユミ板は本機の重量＋作業者の体重に耐えられる物を使用してください。
本機の総重量：
 - HSS960i：約150 kg（Jタイプ）、約160 kg（JXタイプ）
 - HSS1370i：約165 kg（Jタイプ）、約175 kg（JXタイプ）
3. 下の表を目安に傾斜角度が15度以下になるようなアユミ板を選んでください。



アユミ板の長さ	2.5 m	3.0 m	3.5 m
地面からアユミ板までの高さ	50 cm	60 cm	70 cm

4. ほろまたは、キャブ付のトラックでは、あらかじめ除雪機を格納できる高さを認してください。
5. 燃料が十分あるか確認してください。“空”に近いとエンストしてしまうことがあります。

《手順》

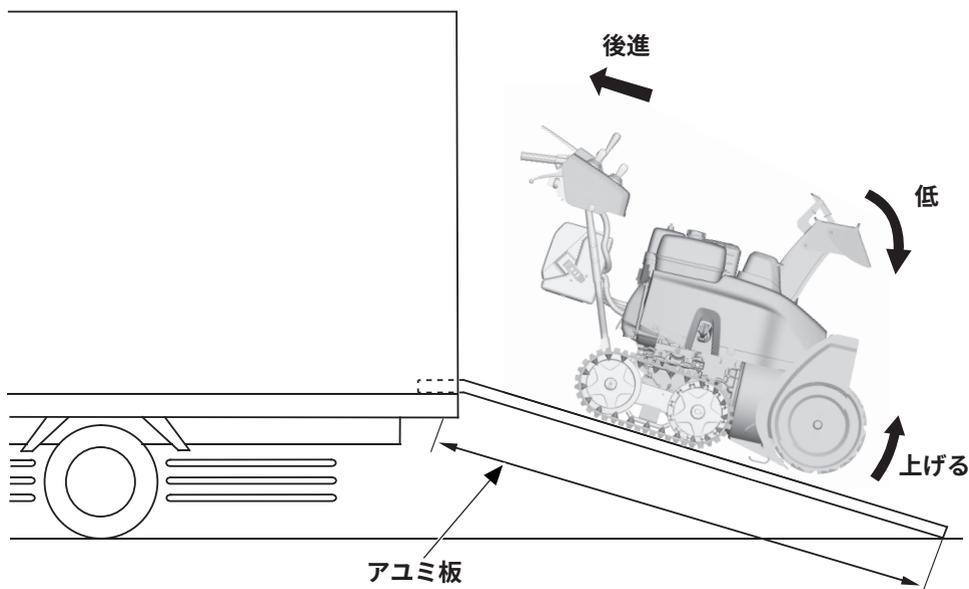
1. アユミ板の幅をクローラーの幅に合わせます。
2. エンジンを始動し、オーガハウジング調節スイッチ(JXタイプ)/オーガハウジング調節レバー(Jタイプ)で、オーガを積み降ろしに必要な高さまで上げます。
3. 投雪方向調節スイッチで投雪口をいっぱいに下げます。

運搬するときは

4. 前後進速度調節レバーを低速域、後進に入れ十分に走行速度を落として、後進でアユミ板を登ります。
5. 本機がほろなどに当たらないように注意しながら本機をトラックの荷台に乗せてください。

▲ 注意

アユミ板の上を移動途中での停止は極力さけてください。万一停止した場合は前後進速度調節レバーを“N”（中立）の位置（走行クラッチレバーを握っても本機が動かない位置）にして再始動してください。

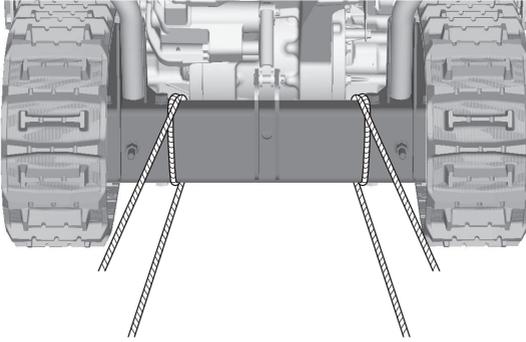


取扱いのポイント

本機を吊上げないでください。本機が破損するおそれがあります。

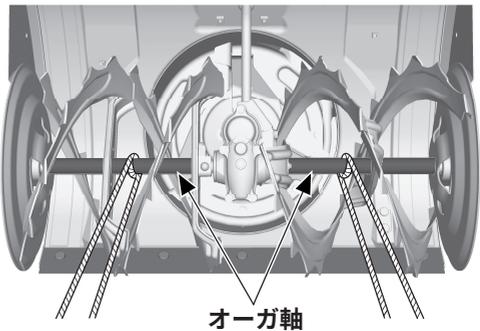
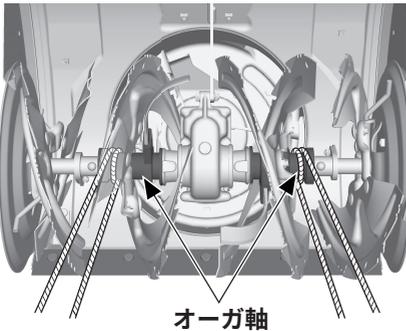
運搬するときは

- 荷台に乗せたらエンジンを停止させて、燃料コックレバーを“止”にします。
- 本機の下図の箇所をロープ等で固定してください。



[JXタイプ]

[Jタイプ]



⚠ 警告

本機を運搬するときは、燃料漏れを防ぐために燃料コックレバーを“止”の位置に合わせてください。こぼれた燃料が引火することがあります。

取扱いのポイント

- オーガにロープを引っかけないでください。
- ロープをかける場合は配線、ケーブル、ホースを一緒にかけないでください。破損するおそれがあります。
- 本機を破損するおそれがありますので、必要以上にロープ等を強く締付けないでください。

長期間使用しないときの手入れ

除雪シーズンが終わり長期間格納するときは、次のシーズンも快適にお使いいただくために次の手入れを必ず行ってください。

30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。

- 燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- 作業は風通しが良く、屋外の換気の良い場所で行い、燃料付近でのタバコを吸ったり、炎など火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから作業を行ってください。静電気の放電による火花により気化した燃料に引火し、ヤケドを負うおそれがあります。
- ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ガソリンをふき取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

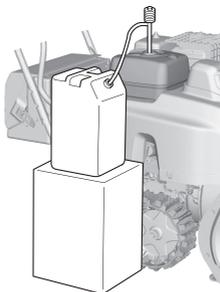
取扱いのポイント

次回使用時は新鮮な燃料を補給してください。

1. 保管するときは、オーガハウジングを接地させ、エンジンスイッチキーを抜いてください。
2. 燃料タンク、キャブレターの燃料を抜きます。

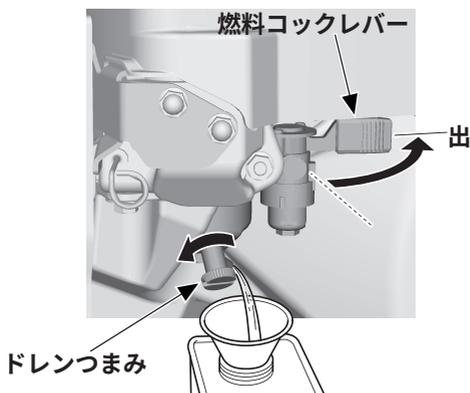
《抜きかた》

- ① 燃料タンク内の燃料を抜きます。
 - 燃料給油キャップを外し、市販のガソリン用ポンプなどを使用して燃料タンク内のガソリンを専用容器に移してください。電動式のポンプは使用しないでください。



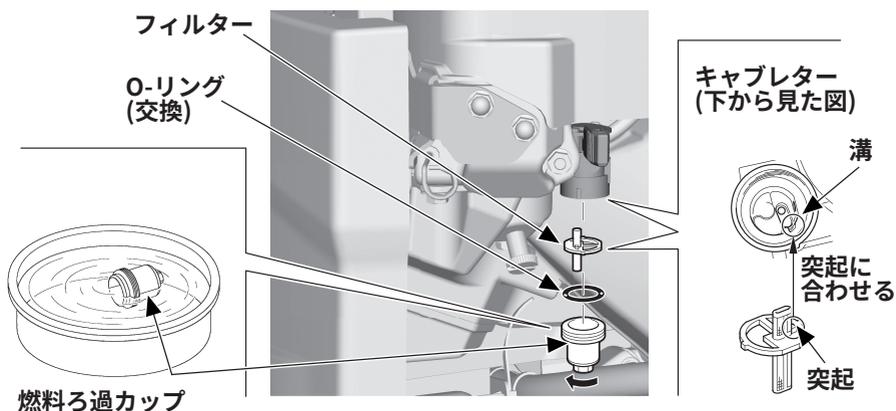
長期間使用しないときの手入れ

- ② 燃料コックレバーを“出”に合わせます。
- ③ キャブレター（気化器）のドレンつまみを回して燃料を容器に受けます。ドレンつまみが固くて回らない場合は、ドレンつまみの溝に合う工具などを使用して回してください。
- ④ 完全に抜けたらドレンつまみを確実に締めます。
- ⑤ 燃料コックレバーを“止”にします。



3. 燃料ろ過カップの清掃

- ① 燃料ろ過カップ、O-リング、フィルターを外し、燃料ろ過カップ、フィルターを洗油で洗浄します。
- ② 清掃後、燃料フィルターと新しいO-リングを確実に取付けます。
 - 燃料フィルターの取付けは、図のようにフィルターの突起をキャブレター側の溝に合わせて取付けます。
- ③ 燃料ろ過カップを確実に取付けます。
- ④ 燃料コックレバーを“出”にし、燃料の漏れのないことを確認します。



長期間使用しないときの手入れ

4. バッテリーの手入れ

保管時は、バッテリーの⊖端子を外しておいてください。（40頁参照）

長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は放電しますので6か月に1度および除雪時期の初めと、終わりにバッテリーを外して（40頁参照）補充電を行ってください。

バッテリーの充電は、換気の良い安全な場所で行ってください。

⚠ 警告

- バッテリーを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているため爆発の危険があります。
- バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリーの劣化を早めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。破裂（爆発）の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリーの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側から外し、付属のチューブを端子に取付け、保護してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

長期間使用しないときの手入れ

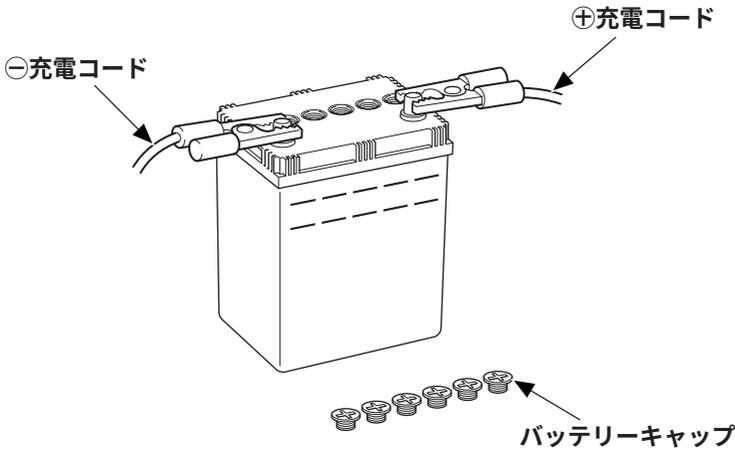
《充電のしかた》

バッテリーの充電は、換気の良い安全な場所で行ってください。

- ① バッテリー液の点検をします。（37頁参照）
- ② バッテリーコード⊖端子の接続を外します。
- ③ バッテリーコード⊕端子の接続を外します。
- ④ バッテリーを除雪機から取外します。（40頁参照）
- ⑤ バッテリーの充電は充電器の取扱説明書の指示に従ってください。
 - 充電するときはバッテリーキャップを外してください。
 - 充電器は12V用をご使用ください。

充電時間：2.7A で約10時間（標準）

- ⑥ 充電終了後、バッテリーにバッテリーキャップを取付けます。次にバッテリーを除雪機に取付けます。取付けは、取外しの逆手順で行ってください。



取扱いのポイント

バッテリーコードの取外しは必ず上の手順で行い、取付けは逆の手順で行ってください。誤るとショートする場合があります。

5. ボルト、ナットの破損、腐食、ゆるみの点検。（83頁参照）

長期間使用しないときの手入れ

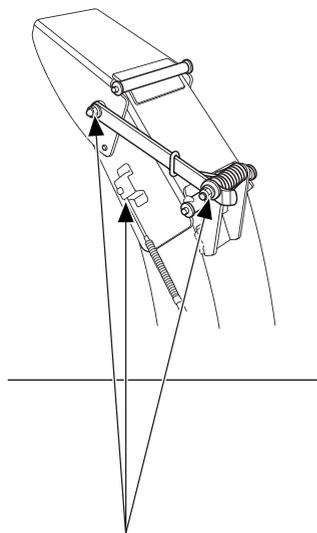
6. 保管時の給油箇所

水気、汚れを拭きとり、乾燥後に回転部および摺動部にオイルまたはグリースを注油してください。

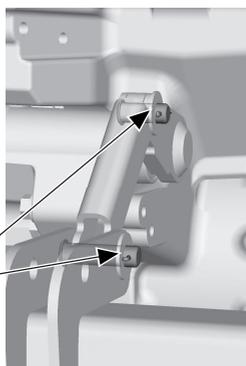
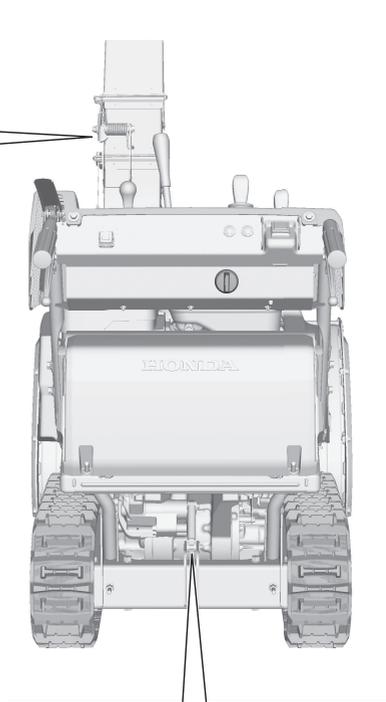
ご自身で作業できない場合、お買いあげ販売店またはサービス指定店にご相談ください。

 : オイル(エンジンオイル 5W-30、10W-30相当品)

 : グリース(低温用)



 シューターガイド支点部

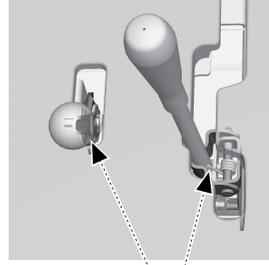


 ハイトリンク(上下)
(JXタイプのみ)

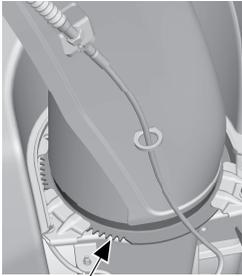
長期間使用しないときの手入れ



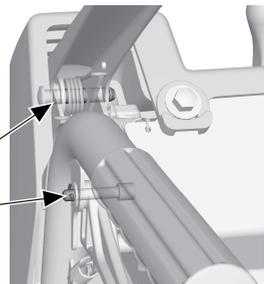
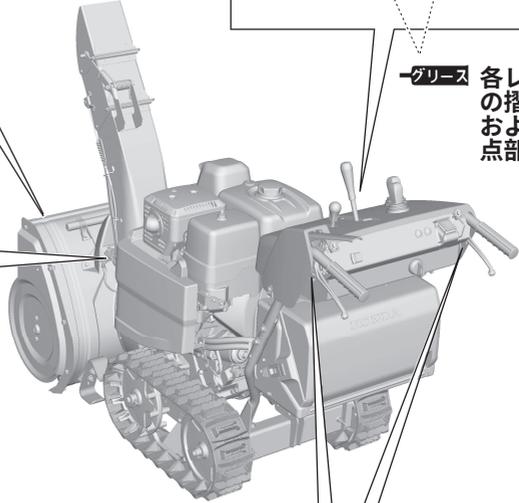
—グリース— オーガ、
ブロウ



—グリース— 各レバー
の摺動部
および支
点部



—グリース— 摺動部

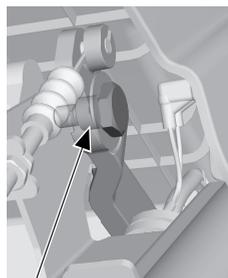
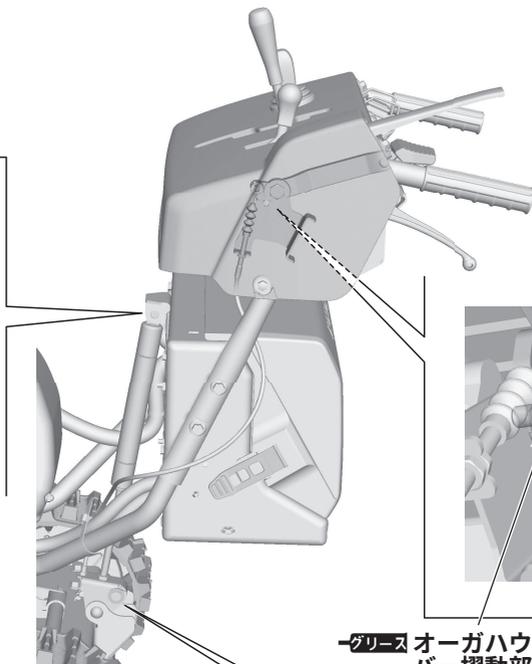
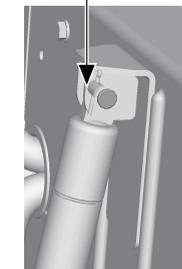


—グリース— 各レバーの摺動部および
支点部(左右)

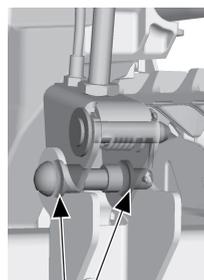
長期間使用しないときの手入れ

[Jタイプのみ]

—グリース 摺動部



—グリース オーガハウジング調節レバー摺動部



—グリース 摺動部

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないで買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください。

始動しないときは、次の点を確認しましょう。

1. 始動方法は、取扱説明書とおりですか？（47～48頁参照）
2. 燃料はありますか？（34頁参照）
3. 燃料コックレバーは“出”の位置になっていませんか？（47頁参照）
4. オートチョークが氷等の付着により働かなくなっていないですか？（49頁参照）
5. 点火プラグキャップは確実に取付けられていますか？（80頁参照）
点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（80頁参照）
 - 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。
 - 運転中に制御表示灯（橙）が点灯、点滅し、エンジン再始動後も消灯しない場合は、直ちに買いあげ販売店またはサービス指定店で点検を受けてください。
 - 運転中に制御警告灯（赤）が点灯する場合は、安全な場所に移動してエンジンを停止し、しばらくたってから再始動してください。エンジン始動後に消灯すれば正常です。消灯しない場合は、買いあげ販売店またはサービス指定店で点検を受けてください。

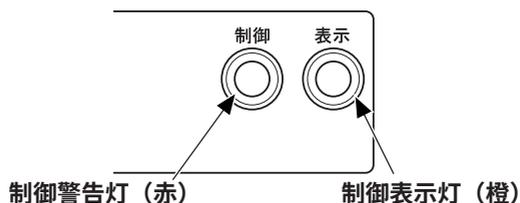
少し時間をおいてもう一度確認しましょう

故障診断機能

制御警告灯（赤）、制御表示灯（橙）にて、除雪機の故障や状態をお知らせします。

故障診断表に従い対処してください。（99頁参照）

制御表示灯（橙）は、故障内容にあった点滅回数を繰返し表示します。またエンジンスイッチを“停止”の位置にし、再度“運転”の位置にしても、点滅回数を繰返し表示します。



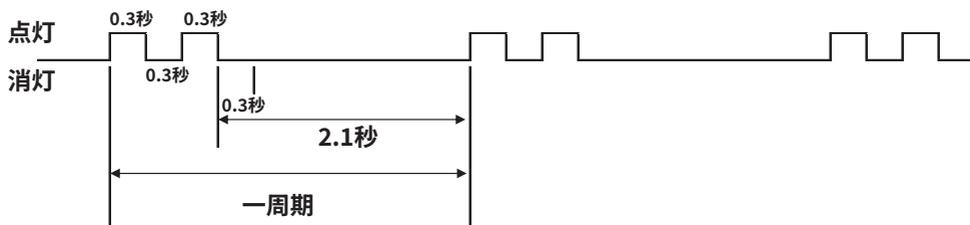
故障のときは

制御表示灯（橙）は、短い点滅と長い点滅の組み合わせで故障内容を表示します。点滅は以下の2つのパターンがあります。

《短い点滅を1～9回繰り返す場合》

点滅周期は0.3秒点灯→0.3秒消灯。故障回数点滅後に2.1秒消灯時間があり、再度の繰り返しをします。

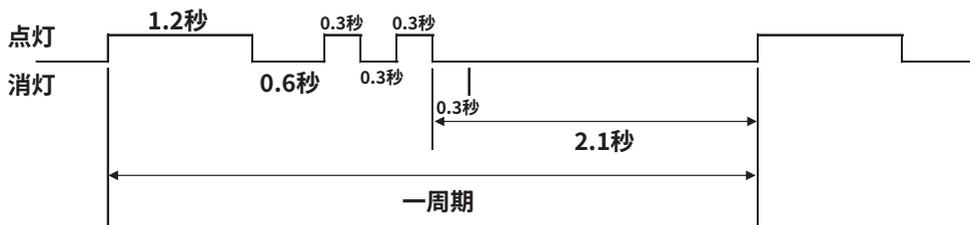
例：2回点滅の場合



《長い点滅の後に短い点滅を1～5回繰り返す場合》

点滅周期は1.2秒点灯→0.6秒消灯。故障回数点滅後に2.1秒消灯時間があり、再度の繰り返しをします。

例：長い点滅の後、短い点滅が2回の場合



制御警告灯（赤）の点灯と制御表示灯（橙）の点滅回数を確認してください。

故障診断表

制御警告灯(赤)	制御表示灯(橙)点滅回数	不具合内容	原因	処置	
点灯	消灯	ランプ切れまたはメインPCU異常	ランプ切れ、メインPCU故障	お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください。	
	短い点滅2回	メインPCU異常	メインPCU故障		
	短い点滅3回		前後進速度調節レバーアングルセンサー異常		前後進速度調節レバーアングルセンサー断線または短絡
			右旋回レバーアングルセンサー異常		右旋回レバーアングルセンサー断線または短絡
			左旋回レバーアングルセンサー異常		左旋回レバーアングルセンサー断線または短絡
			走行クラッチレバースイッチ異常		走行クラッチレバースイッチ断線または短絡
	短い点滅4回		除雪クラッチボタン異常		オーガクラッチスイッチ断線または短絡
			右側ドライバー温度異常		右側ドライバー通信回路の過熱、またはクロウラの異常 右側ドライバー故障
	短い点滅5回		右側モーター異常		右側モーターの機械的故障
					右側モーター/ドライバー故障
					右側モーターセンサー断線または短絡
					右側モーター三相線の断線
	短い点滅6回		左側ドライバー温度異常		左側ドライバー通信回路の過熱、またはクロウラの異常 左側ドライバー故障
					左側モーター異常
	短い点滅7回		左側モーター異常		左側モーターの機械的故障
					左側モーター/ドライバー故障
					左側モーターセンサー断線または短絡
短い点滅8回		電磁ブレーキ異常	電磁ブレーキ断線または短絡		
		オーガクラッチ異常	オーガクラッチ断線または短絡		
		シューターモーターの異常	シューターモーターの短絡		
長い点滅1回		右側ドライバー過電圧	バッテリー端子の外れ		
		左側ドライバー過電圧			
長い点滅1回、短い点滅1回		バッテリー電圧の低下	バッテリーの寿命またはACG故障、ACGヒューズ切れ		
		モーター温度異常	過負荷によるモーターの過熱		
長い点滅1回、短い点滅2回		モーター温度検出異常	モーター温度センサー断線または短絡		
		長い点滅1回、短い点滅3回*2	エンジン回転調節レバーアングルセンサー異常	エンジン回転調節レバーアングルセンサー断線または短絡	
長い点滅1回、短い点滅4回*2		メインPCUとエンジンPCU間の通信異常	エンジンPCU通信回路の断線または短絡		
		エンジンPCU異常	エンジンPCU故障		
長い点滅1回、短い点滅5回*3		シャープボルトガード異常	オーガミッション内部の不良、リミットスイッチの短絡または断線		

*1：エンジン再始動後も点滅する場合はお買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください。

*2：HSS1370のみ

*3：除雪クラッチボタン表示灯(緑)も点滅します。(Jタイプのみ)

異常にお気づきの場合は、お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください。

故障のときは

(1) エンジンがかからない

不具合内容	原因	解決方法
キャブレターに燃料が来ていない	燃料コックが開いていない	燃料コックレバーを“出”の位置にする：47頁参照
	燃料タンクにガソリンが不足している	補給：34頁参照
	燃料フィルターの詰まり	
	燃料配管の凍結	
キャブレターに燃料は来ている	キャブレターのオーバーフロー	お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください
	キャブレターの詰まり	
	ガソリンが劣化している	
	ガソリンに水が混入している	
スターターが回らない	始動時に走行クラッチレバーまたは除雪クラッチボタンを操作している	エンジン始動時には、走行クラッチレバーと除雪クラッチボタンを操作しないでください
	バッテリーがあがっている	バッテリーの充電または交換：37、93頁参照
	ヒューズが切れている	ヒューズの点検、交換：85頁参照
	バッテリー端子が外れている	バッテリーの点検：37頁参照
	スターターの故障	お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください
スターターは回る	オートチョークの凍結 (HSS1370i)	オートチョークが作動不良となっている可能性があります。マニュアルスタートレバーを操作し、再度始動操作を行ってください：19頁参照
	点火プラグキャップの取付け不良	点火プラグを確実に取付ける：80頁参照
	点火プラグの破損	点火プラグの交換：80頁参照
	点火プラグの汚れ	お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください
	制御警告灯（赤）が点灯している	エンジンスイッチを切り、再度運転位置に回しても警告灯が点灯する場合には故障の可能性がありますので、お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください
制御表示灯（橙）が点滅、除雪クラッチボタン表示灯（緑）が点滅している（Jタイプ）	シャーボルトガードが作動している	シャーボルトガード機能の確認：68頁参照

(2) うまく走行できない

不具合内容	原因	解決方法
走行しない		走行クラッチレバーを放して除雪作業を中断し、エンジンを止めずに制御表示灯（橙）の3回点滅が消えるまで待つ モーター保護機能：65頁参照
走行スピードが遅くなった	走行モーターが過熱して保護機能が作動している	
走行クラッチレバーを握っても走行しない	制御表示灯（橙）が点滅または点灯している	制御表示灯（橙）の点滅回数を確認してお買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください※1
	クローラーのホイールピンが外れている	お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください
除雪作業中進みにくい	除雪部に雪が付着、堆積している	オーガハウジング下部に堆積した雪の除去。除去方法、雪かき棒の使いかた：71頁参照
	オーガハウジングの高さが適正でない	オーガハウジング高さ調節：51頁参照
	オーガロックボルトが折れている	オーガロックボルトの点検、交換：41、83頁参照
うまく後進できない	オーガハウジングの高さが“高”になっていないため、除雪面にオーガが引っかかっている	オーガハウジング高さ調節：51頁参照
旋回しない (旋回しにくい)	雪が多く積もっている所で、オーガが雪に埋まっている	オーガハウジングの高さを“高”にし、速度を低速にして旋回レバーを握りながらハンドルに力を加えて向きをかえてください
	旋回レバーを握ったとき、旋回したい方向のクローラーが減速または停止していない	旋回レバーセンサー、走行モーターなどの故障が考えられます。お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください
超信地旋回ができない	前後進速度調節レバーの位置が適切でない	前後進速度調節レバーを前進側低速域の位置で、旋回レバーを完全に握り込んでください。旋回レバーの握り込み量が小さいと超信地旋回にはなりません
	旋回レバーの握り込み量が小さい	旋回のしかた：63頁参照

故障のときは

(2) うまく走行できない(つづき)

不具合内容	原因	解決方法
バッテリー走行 ができない	バッテリー走行モードになっていない	左右の旋回レバーを同時に約3秒握り続ける操作が必要です バッテリー走行モードの操作方法：66頁参照
	バッテリー走行が終了後、5秒経過し、制御警告灯（赤）と制御表示灯（橙）が点灯している	エンジンスイッチを“停止”の位置に戻し、もう一度操作を行ってください バッテリー走行モード操作方法：66頁参照
	バッテリーがあがっている	バッテリーの充電または交換：38、93
制御表示灯（橙）が点滅または点灯している	電装品の故障	制御表示灯（橙）の点滅回数を確認してお買上販売店またはサービス指定店にご連絡ください※1 故障診断機能：97頁参照

※1：販売店またはサービス指定店に、ご連絡の際は必ず制御表示灯（橙）の点滅回数をお伝えください。

▲ 注意

- 柔らかい雪が多く積もっている状態では本機が雪に乗り上げて走行しにくい場合があります。
クローラーがスリップしないように低速で走行するか、ハンドルを押ししたり引っ張ったりしながら脱出してください。
- エンジンスイッチを“運転”の位置で放置するとバッテリーが消耗し、エンジンが始動できなくなります。
バッテリー走行終了後は、必ずエンジンスイッチを“停止”の位置にしてください。

(3) うまく除雪ができない

不具合内容	原因	解決方法
除雪作業中に進みにくい	オーガに雪がついている	オーガハウジング下部に堆積した雪を除去する：71頁参照
	オーガハウジングの高さが適正でない	オーガハウジング高さ調節：51頁参照
	オーガロックボルトが折損している	オーガロックボルトの点検、交換：41、83参照
投雪口から雪が出ない	投雪口に雪が詰まっている	除雪方法、雪かき棒の使いかた：71頁参照
雪を集められない	オーガに雪が詰まっている	オーガの雪を除去する：71頁参照
ブロワが回転しない	走行モーターが過熱して保護機能が作動している	走行クラッチレバーを離して除雪作業を中断し、エンジンを止めずに制御表示灯（橙）の3回点滅が消えるまで待つ モーターの保護機能：65頁参照
	ブロワロックボルトが折損している	ブロワロックボルトの点検、交換：41、83頁参照
	除雪クラッチボタンスイッチまたは電磁クラッチの故障	お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡にご連絡ください
オーガが回転しない	走行モーターが過熱して保護機能が作動している	走行クラッチレバーを離して除雪作業を中断し、エンジンを止めずに制御表示灯（橙）の3回点滅が消えるまで待つ モーターの保護機能：65頁参照
	オーガロックボルトが折損している	オーガロックボルトの点検、交換：41、83頁参照
	除雪クラッチボタンスイッチまたは電磁クラッチの故障	お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください
雪の飛びが悪い	エンジンの負荷が大きい（iコントロールボタン【切】で作業時）	走行速度を下げる：69頁参照
	エンジンの回転数が低い（iコントロールボタン【切】で作業時）	エンジン回転調節レバーを“高速”にする
	投雪口が下向きになっている	投雪口を上向きにする：29頁参照
	ブロワロックボルトが折損している	ブロワロックボルトの点検、交換：41、83参照
	オーガロックボルトが折損している	オーガロックボルトの点検、交換：41、83頁参照
	ブロワが変形している	ブロワの交換：84頁参照

故障のときは

(3) うまく除雪ができない (つづき)

不具合内容	原因	解決方法
硬い雪に乗り上げて食い込まない	オーガハウジングの高さが適正ではない	オーガハウジング高さ調節：51頁参照
オーガハウジングから雪があふれてしまう	ソリ、スクレーパーの高さが適正ではない	ソリ、スクレーパーの調節：42頁参照
	オーガロックボルトが折損している	オーガロックボルトの点検、交換：41、83頁参照
	ブロワロックボルトが折損している	ブロワロックボルトの点検、交換：41、83頁参照
オーガが路面に当たる	オーガハウジングの高さが適正ではない	オーガハウジング高さ調節：51頁参照
	ソリ、スクレーパーの高さが適正ではない	ソリ、スクレーパーの調節：42頁参照
オーガから異音がる	オーガ、ブロワの羽、シャフトなどが変形している	お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください
投雪口が回転しない	モーターの過熱（ブレイカー作動）	使用頻度が高く、過熱すると内部保護機能がはたらきます。しばらく待ってから操作してください
	モーター、スイッチの故障 PCUの故障	お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください
シューターガイドが上下に動かない	モーターの過熱（ブレイカー作動）	使用頻度が高く、過熱すると内部保護機能がはたらきます。しばらく待ってから操作してください
	モーター、スイッチの故障 PCUの故障	お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください
オーガハウジング高さが調節できない（JXタイプ）	パワーハイトの過熱	使用頻度が高く、過熱すると内部保護機能がはたらきます。しばらく待ってから操作してください
	パワーハイトの故障 PCUの故障	お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください

(3) うまく除雪ができない (つづき)

不具合内容	原因	解決方法
制御表示灯（橙）が点滅または点灯する	伝送システムの異常、または故障	制御表示灯（橙）の点滅回数を確認してお買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください※1 故障診断機能：97頁参照

- 積雪が5 cm に満たないような条件では、雪がまとまって遠くに飛ばない傾向にあります。このようなときは、前後進速度調節レバーを高速にし、多くの雪を集めると飛びやすくなります。

※1：販売店またはサービス指定店に、ご連絡の際は必ず制御表示灯（橙）の点滅回数をお伝えください。

(4) その他のトラブル

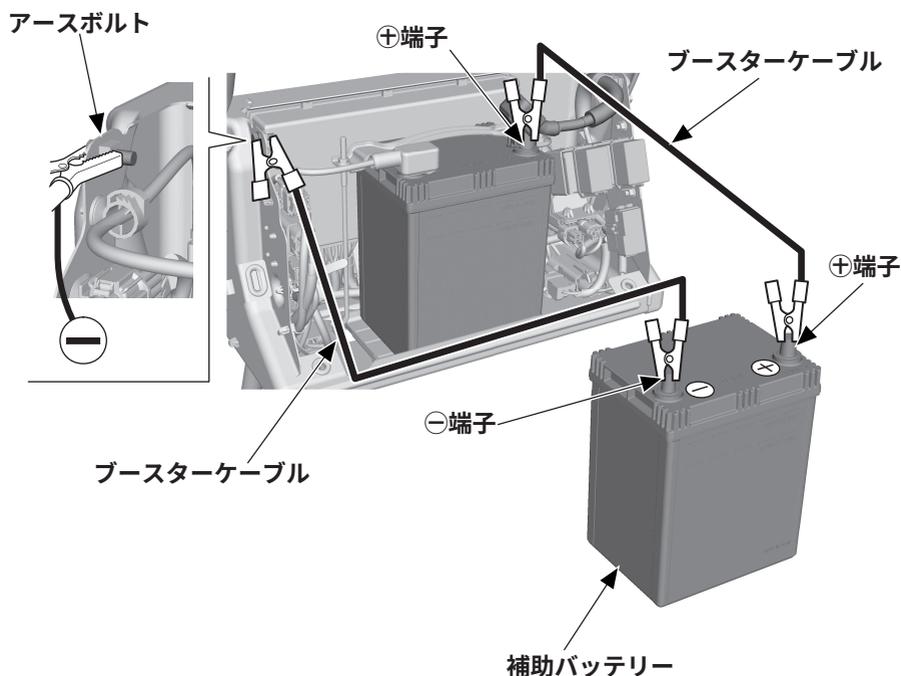
不具合内容	原因	解決方法
クローラーが外れてしまう	クローラーがゆるんでいる	クローラーの張りの点検、調整：82頁参照
作業灯が点灯しない	バッテリーがあがっている	バッテリーの充電または交換：37、93頁参照
	ヒューズが切れている	ヒューズの点検、交換：85頁参照
	作業灯のLEDの故障	お買いあげ販売店またはサービス指定店にご連絡ください

故障のときは

バッテリーあがりのとき

12V 補助バッテリーを利用してエンジンを始動します。

1. ブースターケーブルを次の順番で接続します。
 - 1本目のブースターケーブル
(1) 本機バッテリーの⊕端子（ビニールカバーを外す）に接続する
(2) 補助バッテリーの⊕端子に接続する
 - 2本目のブースターケーブル
(3) 補助バッテリーの⊖端子に接続する
(4) 本機アースボルトに接続する
2. エンジンを始動します。（47～49頁参照）
3. ブースターケーブルを接続と逆の手順で外します。



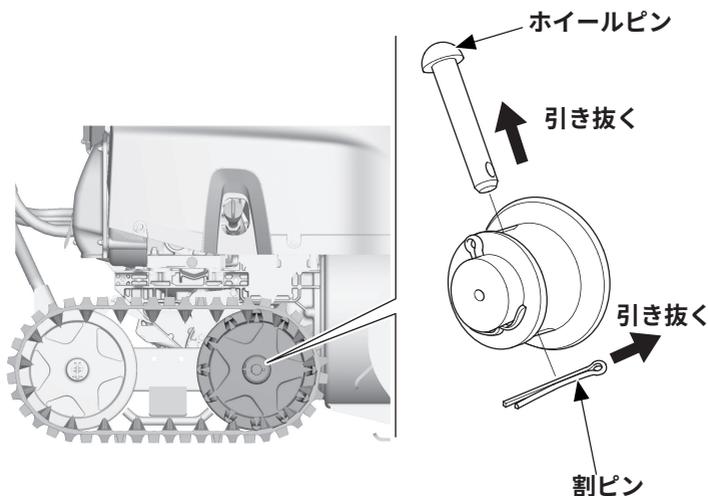
⚠ 警告

- バッテリーを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているため爆発の危険があります。
- バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリーの劣化を早めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。破裂（爆発）の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリーの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側から外し、付属のチューブを端子に取付け、保護してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- 本機に12Vバッテリー以外の接続はしないでください。引火、爆発により重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。
- ブースターケーブルを接続するときは、次のことを必ず守ってください。火花が出て、バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
 - ⊕端子と⊖端子を間違えないでください。
 - ケーブルの先端どうしを接触させないでください。
 - 補助バッテリーを使用してもエンジンが始動しなかったり、本機が起動しなかったりする場合は、直ちにエンジン始動をやめ、バッテリーを本機からおろして充電してください。そのままエンジンを始動し続けると、バッテリーに重大なダメージを与え、破損、爆発の可能性があります。

故障のときは

本機が動かなくなったときの移動手順

1. エンジンスイッチを“停止”の位置にし、エンジンスイッチキーを取外します。
2. 左右前輪の割ピンを引き抜きます。
3. 左右前輪のホイールピンを引き抜くと、クローラーが空転状態となり、押したり、引いたりして移動できます。



⚠ 警告

- ホイールピンを抜くときはエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜き、各回転部が完全に止まってから作業を行ってください。
- 傾斜地ではホイールピンを抜かないでください。本機が空走して、思わぬ事故を招くことがあります。
- 滑りやすい場所では十分に注意して移動してください。
- 移動後は平坦な場所に駐車し、ホイールピンを取付けるときは新しい割ピンを使用してください。

名称	HSS960i	
タイプ	J	JX
型式	SBRJ	

エンジン

名称	GX270T2	
最大出力／回転速度 (SAE J1349 に準拠*)	6.3 kW (8.6 PS)/3,600 rpm	
排気量	270 cm ³	
内径×行程	77.0 × 58.0 mm	
始動方式	セルフスターター	
点火方式	CDI マグネット点火	
オイル容量	1.1 L	
燃料タンク容量	5.0 L	
点火プラグ	BPR5ES (NGK), W16EPR-U (DENSO)	
バッテリー	12 V 27 Ah	

フレーム

全長	1,410 mm	1,490 mm
全幅	620 mm	
全高	1,160 mm	
乾燥質量 [重量]	145 kg	155 kg
除雪幅	620 mm	
除雪高	520 mm	

* ここに表示したエンジン出力はSAE J1349 に準拠して3,600 rpm (エンジン最大出力) で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。

完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

主要諸元

名称	HSS1370i	
タイプ	J	JX
型式	SBSJ	

エンジン

名称	GX390T2	
最大出力／回転速度 (SAE J1349 に準拠*)	8.7 kW (11.8 PS)/3,600 rpm	
排気量	389 cm ³	
内径×行程	88.0 × 64.0 mm	
始動方式	セルフスターター	
点火方式	CDI マグネット点火	
オイル容量	1.1 L	
燃料タンク容量	5.7 L	
点火プラグ	BPR5ES (NGK), W16EPR-U (DENSO)	
バッテリー	12 V 27 Ah	

フレーム

全長	1,510 mm	
全幅	720 mm	
全高	1,160 mm	
乾燥質量 [重量]	160 kg	170 kg
除雪幅	720 mm	
除雪高	520 mm	

* ここに表示したエンジン出力はSAE J1349 に準拠して3,600 rpm (エンジン最大出力) で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。

完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

目次
 HSS960i(J/JX タイプ)、HSS1370i(J/JXタイプ)…………… (巻末)

部品の略語表

ACG	ACジェネレータ
ACGF	ACジェネレーターヒューズ
Ase	スロットルセンサー
ACSw	除雪クラッチボタン
AHSw	オーガハウジング調節スイッチ
BAT	バッテリー
CC	Canコネクタ
CCSw	投雪方向調節スイッチ
CGMo	シューターガイドモーター
CMo	シューターモーター
D-CDI	デジタルCDI
DrClSw	走行クラッチレバー
EgPCU	PCU (エンジン側)
EgG	アース
EgNESe	エンジンNEセンサー
EgSw	エンジンスイッチ
ELEC B(L)	L.電磁ブレーキ
ELEC B(R)	R.電磁ブレーキ
ELEC C	電磁クラッチ
FBOX	ヒューズボックス
FG	アース
HL	作業灯
HMo	ハイトモーター

配線図

ICS SW	iコントロールスイッチ
InC	初期化カプラー
L MoAss	L.モーター
LMSw	リミットスイッチ
LTSe	左旋回センサー
MoF	モーターフューズ
PCU	パワーコントロールユニット
R MoAss	R.モーター
RTSe	右旋回センサー
SG	アース
SP	点火プラグ
StMo	スターターモーター
WAR1 PL	制御警告灯
WAR2 PL	制御表示灯

配線図の略語表

Bl	黒	Br	茶
Y	黄	O	橙
Bu	青	Lb	空
G	緑	Lg	若葉
R	赤	P	桃
W	白	Gr	灰
V	紫	Be	薄茶

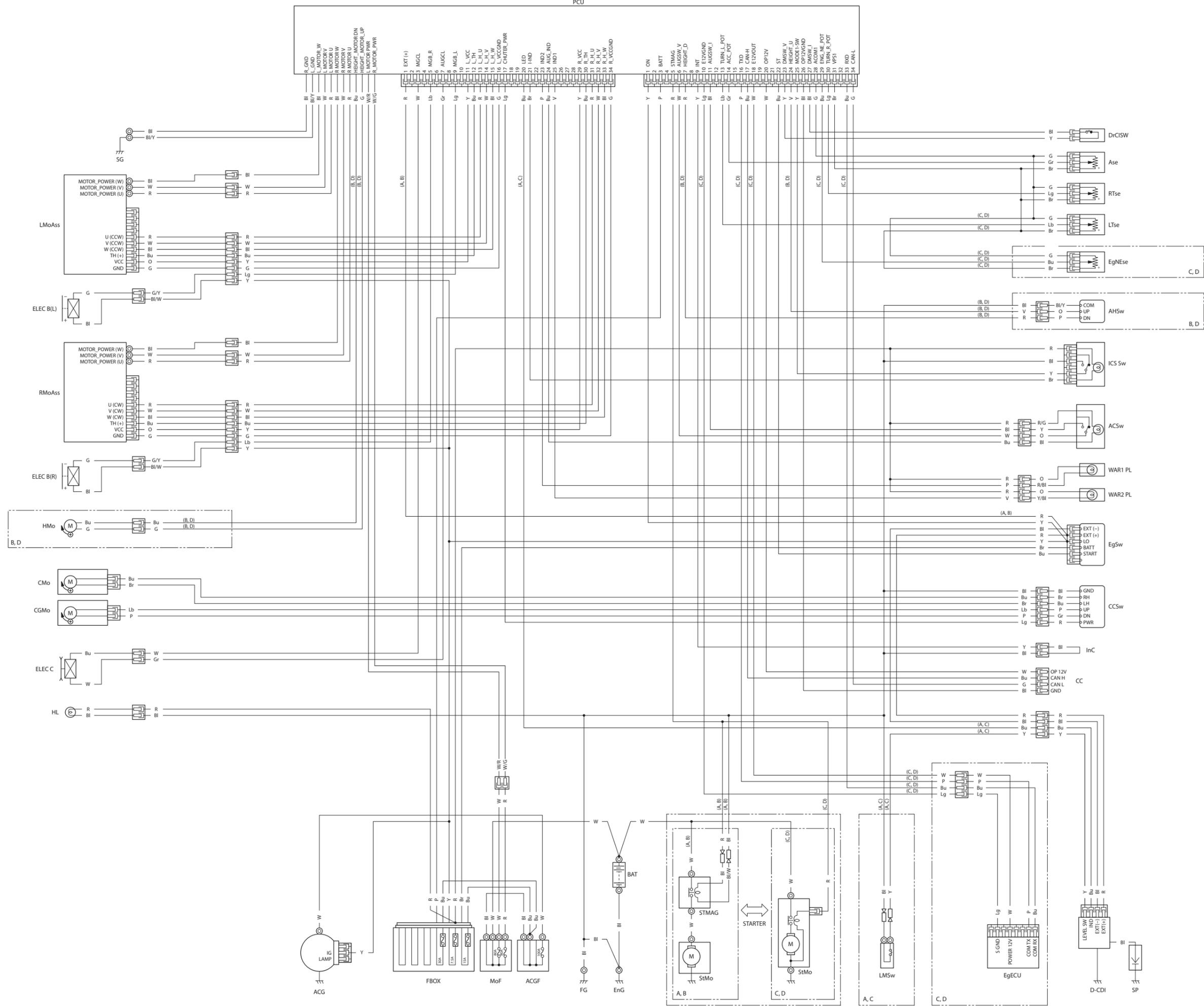
エンジンスイッチ

	EXT (+)	EXT (-)	BAT	LO	ST
停止					
運転	○—○		○—○		
始動	○—○		○—○	○—○	

MEMO

MEMO

MEMO



コード	名称
A	HSS960i (Jタイプ)
B	HSS960i (JXタイプ)
C	HSS1370i (Jタイプ)
D	HSS1370i (JXタイプ)

AHSw

	COM	UP	DN
N			
UP			
DN			

CCSw

	PWR	LH	RH	DN	UP	GND
N						
LH						
RH						
DN						
UP						

本製品についてのお問い合わせ・ご相談は、まず、
Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社

お客様相談センター

フリーダイヤル

0120 - 112010
イフレイアィオ

受付時間 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00
〒351-0188 埼玉県和光市本町 8 - 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

本製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

(1) 製品名、タイプ名

(2) ご購入年月日

(3) 販売店名

(4) フレーム号機 _____ (書込み控え欄)

HONDA

HSS960i
HSS1370i
30V61600
00X30-V61-6000



00X30V61 6000

Ⓝxxxx.xxxx.xx

© 2025 本田技研工業株式会社

Printed in Japan